

講 義 概 要 目 次

【保育科】

共通教育科目【保育科】

英会話Ⅰ	92
生涯スポーツ・健康科学	93
日本国憲法	93
情報処理入門	94
国語表現法	94
自然環境	95
生命科学	95
キャリアデザインⅠ	96

専門教育科目【保育科】

社会福祉	98
相談援助	98
児童家庭福祉	99
多文化共生保育	99
保育原理	100
社会的養護	100
保育実習Ⅰ	101
保育実習Ⅱ	101
保育実習Ⅲ	102
保育実習事前事後指導Ⅰ	102
保育実習事前事後指導Ⅱ	103
保育実習事前事後指導Ⅲ	103
発達心理学	104
青年心理学	104
乳幼児心理学	105
子どもの保健Ⅰ	105
子どもの保健Ⅱ	106
家庭支援論	106
子どもの食と栄養	107
保育内容総論	107
乳児保育	108
障害児保育	108
社会的養護内容	109
保育相談支援	109
ピアノⅠ	110
ピアノⅡ	110
ピアノⅢ	111
音楽（声楽）	111
実技演奏	112
音楽（器楽）	112
図画工作	113
幼児体育	113
言語表現	114
児童文化	114
保育科基礎演習	115
保育者論	115
保育実践演習	116

（教職に関する科目）

教職概論	118
教育原理	118
教育心理学	119
教育相談	119
教職実践演習	120
教育実習	120
教育実習事前事後指導	121
健康（指導法）	121
人間関係（指導法）	122
環境（指導法）	122
言葉（指導法）	123
造形表現（指導法）	123
音楽表現（指導法）	124
劇あそび（指導法）	124
教育課程総論	125
教育方法論	125

講 義 概 要

共 通 教 育 科 目〔 保 育 科 〕

科 目	英 会 話 I	開講時期：1年・通年		履修区分：幼児・ 保育士必修	
		授業形態：演習			
担 当 者	非常勤講師 松原留美	単位数：2単位		授業回数：30回	
		オフィスアワー：授業終了後			
到達目標	日常生活の中でよく使われる英語表現を学び、自分自身の事を4技能（書く、読む、話す、聞く）で表現する事ができる。				
授業の概要	この講義では保育園や幼稚園で必要となる英語を学んで行きますが、園での先生と園児または保護者とのやりとりは、日常に関するものがほとんどです。4技能をバランスよく学習し、身近な英語表現を知る事によって自分自身の英語力を高めて行きましょう。				
事前学習及び事後学習	授業毎に表現や単語の小テストを行います。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授業計画					
1	イントロダクション	11	園行事予定についての会話	21	園外散歩での会話
2	挨拶・自己紹介	12	ネイティブとの打ち合わせ	22	園庭での会話
3	園内の案内	13	体調不良の園児との会話	23	保護者からの相談
4	登園時の会話	14	保護者との電話	24	お昼寝時間の会話
5	工作時間の会話	15	最後の日の会話	25	降園時の会話
6	園外散歩での会話	16	イントロダクション	26	園行事予定についての会話
7	園庭での会話	17	挨拶・自己紹介	27	ネイティブとの打ち合わせ
8	保護者からの相談	18	園内の案内	28	体調不良の園児との会話
9	お昼寝時間の会話	19	登園時の会話	29	保護者との電話
10	降園時の会話	20	工作時間の会話	30	最後の日の会話
成績評価方法		出席20%、小テスト20%、プレゼンテーション30%、試験結果30%			
テキストおよび参考図書		『Happy English for Childcare』金星堂			

科 目	英 会 話 I	開講時期：1年・通年		履修区分：幼児・ 保育士必修	
		授業形態：演習			
担 当 者	非常勤講師 フィリップス・グレゴリー	単位数：2単位		授業回数：30回	
		オフィスアワー：授業終了後			
到達目標	英会話だけでなく外国の週間や文化をより身近に感じ、英語に興味を持ってもらう。				
授業の概要	中学・高校で学んだ英語の復習をしながら、英語での会話練習を行う。単語やイディオム（熟語）を使って英語で表現する癖を付けてください。文法や発音も大切ですが、「楽しくなければ英語ではない」というつもりで授業に臨んでください。				
事前学習及び事後学習	中学・高校で学んだ基礎的な語彙や文法の復習をしながら、基本のあいさつから練習します。モデル会話を聞きながら、何度も繰り返し練習します。相手の意見を聞き、自分の意思を英語で表現できるようになることを目標に、恥ずかしがらずに大きな声で話すように心がけてください。予習、復習には、音読が最も効果的です。声に出すことで脳に記憶として残り、自発的に話したいという行動につながります。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授業計画					
1	挨拶と自己紹介	11	洋服と買い物	21	家庭と家族
2	時間と日、曜日など	12	四季と天気	22	食べ物と飲み物
3	日々の活動やいつも行うこと	13	休暇には何をしますか？	23	会話と復習
4	熟語を使う	14	熟語を使う	24	テレビと映画
5	会話と復習	15	会話と復習	25	会話と復習
6	家庭と家族	16	挨拶と自己紹介	26	洋服と買い物
7	食べ物と飲み物	17	時間と日、曜日など	27	四季と天気
8	会話と復習	18	日々の活動やいつも行うこと	28	休暇には何をしますか？
9	テレビと映画	19	熟語を使う	29	熟語を使う
10	会話と復習	20	会話と復習	30	会話と復習
成績評価方法		授業への参加度20%、レポート提出40%、試験結果40%			
テキストおよび参考図書		毎回ハンドアウトを配布します。辞書を用意しておいて下さい。（スマートフォンは使用不可）			

科 目	生涯スポーツ・健康科学		開講時期：1年・通年		履修区分：幼免・保育士必修
			授業形態：実技・講義		
担 当 者	准教授 堀 田 亮		単 位 数：2単位		授業回数：30回
			オフィスアワー：授業終了後		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期および青年期における運動・スポーツの意義や果たすべき役割を理解することができる。 ・子どもや障がい者を対象とした運動・スポーツ活動に関する基礎的な技術を習得する。 ・子どもや障がい者や高齢者を対象とした運動・スポーツ活動のレパートリーを増やすことができる。 				
授業の概要	体育・スポーツ教育の中核目標である「できる」ことにくわえ、「わかる」ことや「みんながうまくなる」ことを共通目標とする。特に、生涯スポーツの土台となる子どもの運動遊びを体験することを通して、保育者をして必要な運動遊びのレパートリーを増やすこととバリエーションの拡げ方が理解できることを目指す。				
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における様々スポーツイベントに自ら参加したり、障がい者や高齢者を対象としたスポーツ活動にボランティアとして積極的に参加することを通して、地域社会におけるスポーツ活動の現状に対する理解を深めること。 ・授業で体験した運動遊びの方法（工夫、発展を含む）などをレポートとしてまとめること （各回授業の予習・復習時間は60分）				
授 業 計 画					
1	前期オリエンテーション	11	ルールづくり④(三段攻撃を増やすために)	21	鬼遊び
2	アイスブレイキングゲーム	12	まとめのリーグ戦	22	バドミントン(試しのゲームとゲーム分析)
3	コミュニケーションワークゲーム	13	障がい者を対象としたバレーボール	23	リーグ戦①(ルール理解を深めるために)
4	長なわを使った運動	14	高齢者を対象としたバレーボール	24	リーグ戦②(ホールド知の習得のために)
5	パラバールンを使った運動	15	障がい者・高齢者スポーツの課題	25	幼児体操・運動あそびの発表会(1、2班)
6	ボールを使った運動	16	後期オリエンテーション	26	幼児体操・運動あそびの発表会(3、4班)
7	バレーボール(試しのゲームとゲーム分析)	17	短なわを使った運動	27	幼児体操・運動あそびの発表会(5、6班)
8	ルールづくり①(発生当初のルールを参考に)	18	フープを使った運動	28	幼児体操・運動あそびの発表会(7班)
9	ルールづくり②(ラリー数を増やすために)	19	身近な素材を使った運動①(新聞紙)	29	幼児期および青年期におけるスポーツの意義
10	ルールづくり③(触球数を増やすために)	20	身近な素材を使った運動②(ポリ袋)	30	幼児期および青年期のスポーツ活動の課題
評価・単位認定条件		毎授業後の感想文(20%)、授業中に提示する課題レポート(40%)、定期試験(40%)			
テキスト・機器・参考文献		学校体育研究同志会編・鐘ヶ江他著、「幼児期運動遊びの進め方」、創文企画、2009、1620円			

科 目	日 本 国 憲 法		開講時期：1年・後期		履修区分：幼免必修・保育士選択
			授業形態：講義		
担 当 者	講 師 長谷川 哲 也		単 位 数：2単位		授業回数：15回
			オフィスアワー：水曜日2限目		
到達目標	日本国憲法の原理及び基礎的な知識を理解・習得し、平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民的資質を身につけ、政治的・社会的諸問題について考察できる力を習得することを目標とします。				
授業の概要	日本国憲法は、国政の基本を定めた法で、日本の政治と国民生活の基本的なあり方を示しています。全体的な枠組みを体系的に理解しながら、憲法が抱える問題点を学んでいきます。憲法や法に関わる今日のトピックを多く取り上げることで基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。				
事前学習及び事後学習	新聞・テレビ・インターネット等のニュースをよく見聞きし、「その背後にある本質は何か」を自分で考えてみる。また、憲法・法律に関する報道に関心を向け、それらの今日の課題・意味について考察する。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授 業 計 画			8	基本的人権の尊重(天賦人権とは、基本的人権の体系)	
1	憲法を学ぶ意義(学習の目的)		9	基本的人権の限界(基本的人権と公共の福祉)	
2	憲法とは何か(憲法の意味、特質、分類)		10	包括的基本権①(法の下の平等)	
3	日本国憲法の成立(制定過程、基本原理)		11	包括的基本権②(幸福追求権、新しい人権)	
4	国民主権①(国民主権の原理、具体化)		12	自由権(精神的自由権、経済的自由権、人身の自由)	
5	国民主権②(象徴天皇制)		13	社会権(生存権、教育を受ける権利、労働基本権)	
6	平和主義①(戦争の放棄、第9条の解釈論議)		14	統治機構(三権分立と議院内閣制)	
7	平和主義②(自衛権、日米安全保障条約)		15	国会・内閣・裁判所の関係	
成績評価方法			(1)筆記試験(50%) (2)レポート点(30%) (3)授業への意欲的参加・発表質問等(20%)		
テキストおよび参考図書			<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：近畿大学九州短期大学通信教育部教材『日本国憲法』500円 ・補助教材：『講義ノート』授業の際にプリントを配布します 		

科 目	情 報 処 理 入 門	開講時期：1年・通年	履修区分：幼免必修・ 保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 二 摩 修 司	単 位 数：2単位	授業回数：30回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	インターネット（WWW、電子メール）の利活用、事務系ソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作とソフトを利用した文書作成ができる。		
授業の概要	パソコンの利活用能力は、幼稚園教諭や保育士等の職種につくことを目指す全学生に要求される。よって、本科目を情報処理の基幹科目として位置付ける。授業では、情報検索や電子メールなどの操作を通してインターネットの基本的な利用法を修得する。続いて代表的な事務系ソフトの基本的な利用方法を演習を通じて習得する。		
事前学習及び事後学習	タイピングの練習を行うこと。教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。授業で行った演習を必ずあとから自分でやってみること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画			
1	ガイダンス、タッチタイピング	16	MS-Excel（前期の復習）
2	日本語入力(IMEについて)	17	MS-Excel（基本的な関数）
3	インターネットの利用法	18	MS-Excel（相対参照と絶対参照）
4	LMSの使い方、情報検索の方法	19	MS-Excel（グラフ）
5	電子メールの利用法	20	MS-Excel（データベース機能）
6	MS-Word（フォント操作）	21	MS-Excel（やや複雑な関数その1）
7	MS-Word（文字位置、均等割付など）	22	MS-Excel（やや複雑な関数その2）
8	MS-Word（ルーラとタブ設定）	23	MS-Excel（条件付き書式）
9	MS-Word（ワードアートや図の利用）	24	演習課題
10	MS-Word（表作成）	25	MS-PowerPoint（基本操作）
11	MS-Word（ページレイアウトなど）	26	MS-PowerPoint（箇条書き、テーマ選択等）
12	演習課題	27	MS-PowerPoint（図やオブジェクトの挿入）
13	MS-Excel（基本操作、表の作成）	28	MS-PowerPoint（図表・グラフ・表の挿入）
14	MS-Excel（基本的な計算）	29	MS-PowerPoint（特殊効果）
15	演習課題	30	演習課題
成績評価方法		授業への積極的参加：20%、授業中及び期末に出題する課題：80%	
テキストおよび参考図書		「30時間情報リテラシーOffice2016」杉本くみ子・大澤栄子、実教出版 2016年 1,404年	

科 目	国 語 表 現 法	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 皆 川 晶	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	美しい日本語、敬語を話すことができる。文章を読み、内容を理解し、自己の意見を言葉や文章で表現することができる。		
授業の概要	生活の中で言葉が果たす役割を理解し、書くこと、読むことを中心に、日本語における基本を学び、言葉を用いて豊かに表現する能力を深める。		
事前学習及び事後学習	新聞や文章によく接し、言葉や表現への理解を深めること。小テストを実施するので、漢字や語句の復習をすること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	話し言葉と書き言葉
1	日本語の基礎知識	9	文章を書くための基礎知識（表記）
2	絵本について	10	文章を書くための基礎知識（重複表現、文末）
3	会話表現	11	文章の読解
4	敬語を身につける（基礎）	12	文章の要約
5	敬語を身につける（応用）	13	新聞の読解（保育）
6	手紙の書き方	14	新聞を読んで問題点を発見する
7	礼状を書く	15	意見文を書く（保育・教育）
成績評価方法		試験 40% 課題 30% 小テスト 20%	授業への積極的参加 10%
テキストおよび参考図書		授業時にプリントを配付する。	

科 目	自 然 環 境	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 高木 義 栄	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日 5 限目	
到達目標	地球や生命の歴史、天体、構造的な地球環境、生物の特徴、環境問題について説明することができる。原発問題について自分の意見・解決策を主張することができる。観察・採集を通して観察力や集中力を身につけることができる。		
授業の概要	生活福祉情報科・保育科の共通教育科目です。講義形式で天体や地球・生命の歴史、構造的な地球環境、文明発達に伴う環境問題について解説し、基礎知識を学ぶとともに生態系の一員としてのヒト、自然とのかかわり、環境保全について考察します。また、野外での身近な生物の観察・採集を通して、観察力と集中力を養います。原発問題についてはグループ討議で意見交換を行います。		
事前学習及び事後学習	図書館やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にした自然に注意を向け、観察する習慣をつけること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	生物クイズ
1	太陽系と地球、大気組成	9	アリの巣マップの作成
2	河川敷でのバードウォッチング	10	様々な環境問題
3	生きている地球	11	樹木オリエンテーション
4	身近な虫探し	12	原発問題
5	生物の歴史	13	身近な生物（神社）
6	身近な植物（いろいろな花）	14	身近な危険動物
7	ヒトの進化	15	セミ捕り
成績評価方法		レポート・課題提出物：80%、受講態度・講義への積極的参加（自主的な発表など）：20%	
テキストおよび参考図書		特に指定しない。適時プリント配布。 参考図書：荒井秋晴・白石哲・澄川精吾・船越公威『ヒトと自然』、東京教学社、2000年、1,944円	

科 目	生 命 科 学	開講時期：1年・後期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 高木 義 栄	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日 5 限目	
到達目標	観察・採集・インターネットの利用を通して、身近な生物に関する名前や特徴を説明することができる。身近な物を使った工作を通して、生物の存在や特徴を伝える表現力を身につけることができる。		
授業の概要	生活福祉情報科・保育科の共通教育科目です。講義形式で生物の多様性や分類・遺伝について解説し、基礎知識を学ぶとともに多種多様な生物の存在および特徴を理解します。また、野外での観察や採集および身近な自然物・人工物を使った工作を通して、子どもたちに生物の存在を伝える表現力を磨きます。一部の採集物・作品については附属幼稚園の子どもたちにプレゼントします。		
事前学習及び事後学習	図書館やインターネットで関連文献に目を通すこと。普段の生活の中で目にした自然に注意を向け、観察する習慣をつけること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	身近な植物Ⅰ（いろいろな実）
1	生物の多様性、分類、遺伝	9	身近な植物Ⅱ（いろいろな葉）、落ち葉の貼り絵
2	身近な生物Ⅰ（昆虫採集）	10	ドングリを使った工作
3	身近な生物Ⅱ（魚釣り）	11	身近な生物Ⅳ（冬の虫さがし）
4	身近な生物Ⅲ（ネコの分布調査）	12	身近な植物Ⅲ（焼き芋）
5	インターネット検索（デジタルバードウォッチング）	13	カラーコピーを利用した釣りゲーム制作Ⅱ（制作実演）
6	カラーコピーを利用した釣りゲーム制作Ⅰ（素材集め）	14	身近な生物Ⅴ（公園でのバードウォッチング）
7	野外活動での注意点、危険な植物	15	ダンボール恐竜制作・贈呈
成績評価方法		レポート・課題提出物：80%、受講態度・講義への積極的参加（自主的な発表など）：20%	
テキストおよび参考図書		特に指定しない。適時プリント配布。 参考図書：荒井秋晴・白石哲・澄川精吾・船越公威『ヒトと自然』、東京教学社、2000年、1,944円	

科 目	キャリアデザインⅠ		開講時期：2年・前期	履修区分：保育科指定
			授業形態：講義	
担 当 者	教授 金 俊 華 准教授 垂 見 直 樹	単 位 数：2単位	授業回数：15回	
		オフィスアワー：木曜日5限目（金） 月曜日5限目（垂見）		
到達目標	①就職活動における情報収集の重要性を理解し、自ら情報収集することができる。 ②就職活動の流れ・手続きを理解し、積極的に就職活動をすることができる。 ③履歴書作成・面接の技術を高め、自信を持って就職活動に臨むことができる。			
授業の概要	就職活動及び就職試験を受ける際に必要な知識（全国的動向・就職活動の手続き）を習得する。また、履歴書作成や模擬面接を行い、自ら自信を持って就職活動を展開できるよう、実践的な指導を行う。このような実践力向上は、技術的な側面の強化のみならず、社会が求める職業倫理の確立を目指して行われる。最終的に、卒業後も自らのキャリアをデザインできる力を身につけることを目指す。			
事前学習及び事後学習	各講義で指示された課題に積極的に取り組むこと。また、授業内容を踏まえ、希望する進路を明確化し、実現するために積極的に情報収集すること。 （各回授業の予習・復習時間は60分）			
授業計画			8	履歴書の書き方③－志望動機
1	オリエンテーション－キャリアデザインⅡで何を学ぶか	9	就職活動の手続き①－エントリー・応募の方法	
2	大学生・短大生の就職動向－全体的動向と保育・幼児教育関連職種における動向	10	就職活動の手続き②－事前訪問・自主実習	
3	本学卒業生の就職動向と希望進路の明確化	11	就職試験対策①－マナーと留意点・面接の想定問答	
4	情報収集の方法と実践①－web媒体を利用した情報収集	12	就職試験対策②－模擬面接（個人）①	
5	情報収集の方法と実践②－求人票の見方	13	就職試験対策③－模擬面接（個人）②	
6	履歴書の書き方①－良い履歴書を書くために	14	就職試験対策④－模擬面接（集団）	
7	履歴書の書き方②－自己PR	15	就職先の内定に関する諸手続き（内定の確認・研修等の対応）	
成績評価方法		授業中の小レポート：40%、授業への参加・発表：20%、学期末レポート：40%		
テキストおよび参考図書		・授業中に適宜資料を配布する ・参考図書は授業中に紹介する。		

講 義 概 要

專 門 教 育 科 目〔 保 育 科 〕

科 目	社 会 福 祉	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の暮らしと、社会福祉との繋がりを理解することができる。 ・社会福祉の視点と社会福祉の基礎理念を理解することができる。 		
授業の概要	社会福祉の基礎を学習するために、日常的な暮らしの中で起こるさまざまな具体的な事例を紹介し、社会福祉の課題が身近なところにあることを理解できるようにする。主にテキストを使用するが、授業計画にそって資料等の副教材を準備する。また、視聴覚教材も使用する。自分の考えや意見をまとめるためのレポート作成を適宜入れる。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・テレビなどを通して、福祉に関する情報に関心を向け、それらの今日的な課題や意味について考えること。 ・授業後にレポートを作成し、学習した内容の理解を深める。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画	8	日本における社会福祉サービスⅢ－児童家庭福祉の考え方	
1	現代社会の社会福祉	9	日本における社会福祉サービスⅣ－ひとり親への施策
2	社会福祉と保育	10	日本における社会福祉サービスⅤ－高齢者のための福祉
3	社会福祉の歴史1－日本における社会福祉の歩み①(戦前の流れ)	11	社会福祉の組織と施設
4	社会福祉の歴史2－日本における社会福祉の歩み②(戦後の流れ)	12	社会福祉の専門性と専門技術の基礎理論
5	社会福祉の歴史3－諸外国における社会福祉の歩み	13	これからの社会福祉の課題Ⅰ－家族の変容と社会福祉
6	日本における社会福祉サービスⅠ－現代の貧困問題・生活保護	14	これからの社会福祉の課題Ⅱ－少子・高齢社会と福祉財政
7	日本における社会福祉サービスⅡ－障害を持つ人々への支援	15	学習した内容の総括と質疑応答
成績評価方法	試験：40%、レポート：30%、授業への積極的参加（自発的な発表など）30%		
テキストおよび参考図書	橋本好市編者、『保育と社会福祉』、みらい 2015年、2,160円		

科 目	相 談 援 助	開講時期：2年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	講 師 渡 邊 暁	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育士が相談援助（ソーシャルワーク）を学ぶ意義について理解できる。 ②相談援助に必要とされる基本的技術について説明することができる。 ③相談援助の各技術を効果的に活用するための方法を検討することができる。 		
授業の概要	相談援助の概念や目的、それぞれの援助技術の方法などについて理解を深める。また、児童福祉実践者が相談援助を展開するうえで求められる基礎的技能である、①自己覚知、②基礎的な面接技法（面接の姿勢・展開方法、観察と記録、個別支援の流れの基礎）、③コミュニケーションとグループワークについて、演習により体験的に学習していく。		
事前学習及び事後学習	事前にテキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。事後学習として、授業後にレポートを作成し提出する。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画	8	社会福祉援助技術 コミュニティワークの概念と目的	
1	オリエンテーション 相談援助の概念・目的	9	” コミュニティワークの過程と展開
2	ソーシャルワークとは何か、価値・理念とすること	10	基礎的な面接技法・コミュニケーション技法
3	対話による自己理解、交流分析を通じての自己覚知	11	人と環境との交互作用
4	社会福祉援助技術 ケースワークの概念と目的	12	社会福祉援助技術 事例研究1（児童虐待）
5	” ケースワークの過程と展開	13	” 事例研究2（障害児）
6	” グループワークの概念と目的	14	” 事例研究3（家庭・地域支援）
7	” グループワークの過程と展開	15	授業内容の振り返り
成績評価方法	・試験40%・課題レポートの内容20%・グループ発表20%・授業への積極的参加20%		
テキストおよび参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育士をめざす人のソーシャルワーク』相澤譲治編著、みらい、2005年、2,160円 ・『相談援助』久保美紀／林浩康／湯浅典人著、ミネルヴァ書房、2013年、2,160円 		

科 目	児 童 家 庭 福 祉	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉の課題について総括的に考察できる力を養う。 ・保育者として子どもの最善の利益をはかるための基礎的な知識を習得する。 		
授業の概要	<p>子どもや家庭に関する福祉について、歴史、法体系、制度・施策などを取り上げ、総合的に学習していく。また、現代の子どもを取り巻く社会や環境の中で、保育者として子どもの権利を尊重し子どもの最大の利益をはかっていくための課題についてまとめていく。さらに、子どもや家庭に福祉に関する疑問や問題に対し、自分の考えをまとめ、レポート作成をする。</p> <p>主にテキストを使用するが、授業計画にそって資料等の副教材を準備する。また、視聴覚教材も使用する。</p>		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞・テレビなどを通して子どもや家庭への福祉に関する情報に関心を向け、それらの今日的な課題や意味について考えること。 ・授業後にレポートを作成し、学習した内容の理解を深めること。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	子ども家庭福祉サービスⅢ ひとり親世帯への支援
1	子どもと家庭福祉の概念	9	子ども家庭福祉サービスⅣ 障害を持つ子どもへの支援
2	現代社会と子ども家庭福祉—社会環境の変化と子ども家庭福祉	10	子ども家庭福祉サービスⅤ 母子保健施策
3	現代社会と子ども家庭福祉—少子化問題と子ども家庭福祉	11	保育の問題と現状
4	現代社会と子ども家庭福祉—家庭問題と子ども家庭福祉	12	新しい子育て支援の施策
5	子どもと家庭福祉の法体系	13	子どもの権利条約の理解
6	子ども家庭福祉サービスⅠ 社会的養護について	14	世界の子どもの理解と支援
7	子ども家庭福祉サービスⅡ 子ども虐待の防止と支援	15	学習した内容の総括と質疑応答
成績評価方法		試験：50%、レポート：30%、授業への積極的参加（自発的な発表など）20%	
テキストおよび参考図書		大津泰子、『児童家庭福祉—子どもと家庭を支援する第3版』ミネルヴァ書房、2018年、2,376円	

科 目	多 文 化 共 生 保 育	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	教 授 金 俊 華	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が保育現場における異文化間理解の課題と意義を理解し、説明できる能力を習得する。 ・学生が多文化共生保育の意義を説明できる視点を習得する。 		
授業の概要	<p>外国の子どもを受け入れている保育現場の諸問題を把握し、異文化間理解に関する基本的知識を学習する。また、異文化に親しみをもつために必要な保育内容および方法を検討する。さらに、保育者、子ども、保護者とともに多文化共生という課題に取り組む環境作りについて学ぶ。</p>		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生に関連する新聞記事等に興味・関心を持つこと。 ・諸外国の文化や遊びについて資料を集めること。 ・授業中、指示された課題を次回までまとめること。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	諸外国の子どもの遊び②—ヨーロッパ
1	保育現場における多文化的状況の理解	9	宗教と生活様式①—イスラム
2	文化の定義についての理解	10	宗教と生活様式②—キリスト教とユダヤ教
3	異文化間理解の視点①—自文化中心主義	11	宗教と民族問題について
4	異文化間理解の視点②—文化相対主義	12	多文化共生の視点を取り入れた保育内容（発表①）
5	多文化共生の意義①—普遍的価値観	13	多文化共生の視点を取り入れた保育内容（発表②）
6	多文化共生の意義②—多様な選択	14	発表についての討論（グループワーク）
7	諸外国の子どもの遊び①—アジア	15	まとめ：保育現場と地域社会を繋げる多文化共生保育
成績評価方法		試験50%、レポート30%、発表20%	
テキストおよび参考図書		・テキストは指定しない、毎回資料を配付する。参考図書：橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』筑摩書房、2001年、1,800円	

科 目	保 育 原 理	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	教 授 三 木 一 司	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義、内容、方法について理解する。 ・保育者の専門性について理解を深める。 ・保育の現状と今後の課題について把握する。 		
授業の概要	保育者に求められる保育の意義や内容、子どもや家庭との連携、保育の史的変遷、これからの保育のあり方などの理解を通して、保育者としての責務や愛情について学び考える。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・保育をめぐる問題に注目する。 ・実習で把握できた課題を整理しておく。 ・講義の要点を確認し、関連する文献や情報などにあたり理解を広げる。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授業計画		8	連携のためのたより
1	イントロダクション：講義の進め方と講義概要	9	保護者との信頼を深める
2	保育の本質と意義	10	保育の社会的意義
3	子どもの発達と環境－能力の獲得－	11	保育の思想と歴史的変遷
4	赤ちゃんの行動を探る	12	保育記録について
5	あそびの比較－今と昔－	13	保育の方法
6	あそびを通した保育を考える	14	子どもの安全を考える
7	園と家庭の連携とは	15	保育の現状と課題
成績評価方法		定期試験60% 課題40%	
テキストおよび参考図書		適宜資料プリントを配付し、必要に応じて参考文献を講義中に紹介する。 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社 2014年 540円	

科 目	社 会 的 養 護	開講時期：1年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	講 師 渡 邊 暁	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育士にとって社会的養護を学ぶことが必要な理由を説明することができる。 ②児童福祉施設の現状と施設の役割を理解できる。 ③児童福祉施設における養育のあり方を検討する。 ④社会的養護の課題について述べるができる。 		
授業の概要	社会的養護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状および課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達支援のあり方について考察する。		
事前学習及び事後学習	事前学習として新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起きていることを情報収集する。また、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。事後学習として様々な課題に対してレポートを作成し提出する。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	家庭的養護の現状と課題
1	社会的養護を学ぶ目的	9	社会的養護の体系と運営
2	社会的養護の歴史と変遷	10	施設養護の実際
3	児童養護問題発生のメカニズム	11	社会的養護に関わる専門職
4	子どもの権利擁護と社会的養護	12	施設養護における保育士の支援
5	社会的養護の理念と施設養護の基本原則	13	里親の現状と活用
6	家族支援の意義・社会的養護の役割	14	社会的養護と地域福祉
7	児童養護の種類と内容	15	社会的養護の課題
成績評価方法		・試験結果50%・レポート課題30%・授業への積極的参加20%	
テキストおよび参考図書		<ul style="list-style-type: none"> ・『児童の福祉を支える社会的養護』吉田眞理編著、萌文書林、2016年、2,160円 ・『社会的養護』相澤仁・林浩康、中央法規、2015年、2,160円 	

科 目	保 育 実 習 I	開講時期：1年・後期 2年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：実習	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子 講 師 渡 邊 暁	単 位 数：4 単 位	授 業 回 数：
		オフィスアワー：(大津)火曜日 5 限目 (渡邊)火曜日 5 限目	
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのような繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 		
授 業 の 概 要	保育実習Ⅰは、保育士資格を取得するために、児童福祉施設で行う実習である。「保育所」と「それ以外の施設」で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所・施設における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める。 なお、保育実習Ⅰを履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。		
事 前 学 習 及 び 事 後 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の自分の実習のねらい、課題を明確にしておく。 ・教材研究、指導案作成、保育の準備を行う。 ・実習の反省と課題を明確にする。 ・実習後の日誌の作成と提出。 		
授 業 計 画			
<保育所実習> 保育実習Ⅰの「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の内容、機能について理解する。(保育所の1日の流れやプログラムの理解など) 2. 保育所における子どもの理解。(年齢(月例)ごとの子どもの発達とその特徴など) 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。			
<施設実習> 保育実習Ⅰの「施設実習」では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の内容、機能などを理解する。(1日の流れ、子どもの活動など) 2. 保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解 3. 子どもを取り巻く社会や家族の問題について理解する。 4. 日誌の書き方を学ぶ。 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。			
成 績 評 価 方 法		①実習日誌などの提出物 50% ②実習園の評価 30% ③勤務状況等 20%	
テ キ ス ト お よ び 参 考 図 書		田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円／内閣府文部科学省厚生労働省『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社、2017年、540円／石橋裕子・林幸範 編著『改訂版知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円／厚生労働省『保育所保育指針解説書(平成30年)』フレーベル社、2018年、346円	

科 目	保 育 実 習 II	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：実習	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子	単 位 数：2 単 位	授 業 回 数：
		オフィスアワー：火曜日 5 限目	
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習Ⅰ」で学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術と、ニーズに対する理解力・判断力を養う。 		
授 業 の 概 要	「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかななければならない。		
事 前 学 習 及 び 事 後 学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の自分の実習のねらい、課題を明確にしておく。 ・教材研究、指導案作成、保育内容の準備を行う。 ・実習後の反省と課題を明確にする。 ・実習後の日誌の作成と提出。 		
授 業 計 画			
保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。 2. その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。 3. 問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。 4. 延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。 5. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解。(部分実習、全日実習、査定実習) 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。 できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること。			
成 績 評 価 方 法		①実習日誌などの提出物 50% ②実習園の評価 30% ③勤務状況等 20%	
テ キ ス ト お よ び 参 考 図 書		田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円／内閣府文部科学省厚生労働省『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社、2017年、540円／石橋裕子・林幸範 編著『改訂版知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円／厚生労働省『保育所保育指針解説書(平成30年)』フレーベル社、2018年、346円	

科 目	保 育 実 習 Ⅲ	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：実習	
担 当 者	講 師 渡 邊 暁	単 位 数：2単位	授業回数：
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	①保育士として必要な資質、能力、技術について理解し説明できる。 ②施設利用者の生活実態にふれ、支援の必要性について説明できる。		
授業の概要	「保育実習Ⅲ」では、児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅲを履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかななければならない。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの施設実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること。 ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める。 		
授 業 計 画			
保育実習Ⅲでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める 1. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割や保育士の役割について理解を深める。 2. 児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解 3. 養護内容・方法の理解 4. 多様な専門職との連携 5. 保育士としての自己課題の明確化 利用児・者との関わりを持ち、援助の仕方を工夫するよう努めること。			
成績評価方法	①実習日誌などの提出物 50% ②実習施設の評価 30% ③実習への取り組み状況 20%		
テキストおよび参考図書	田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円 石橋裕子・林幸範編著『新訂版 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円 太田光洋編著『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド第2版』ミネルヴァ書房、2015年、3,456円		

科 目	保 育 実 習 事 前 事 後 指 導 Ⅰ	開講時期：1年・通年	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子 講 師 渡 邊 暁	単 位 数：2単位	授業回数：30回
		オフィスアワー：(渡邊)火曜日5限目 (大津)火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・指導計画書の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 ・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 		
授業の概要	この科目では、始めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容に関して保育所実習・児童福祉施設実習についての授業を行う。保育所実習・児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・指導計画書の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に、具体的な事例に基づきながら行っていく。また、実習後は、それぞれの総括と自己評価を行い、保育実習Ⅱ・Ⅲにおける新たな課題や学習目標をまとめていく。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業内容について、テキストや資料等に目を通しておくこと ・手遊び・歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をしておくこと。 ・授業後に課題レポートを作成し、次回提出すること。 ・保育実習後の反省をふまえて、実習事後報告レポートを作成し提出すること。(各回授業の予習・復習時間は60分) 		
授 業 計 画			
1	保育実習の流れ(大津)	11	保育所と幼稚園の違い②(参加観察実習)(大津)
2	保育実習の目的と理解①(保育園)(大津)	12	実習日誌の作成・記録①(基礎)(渡邊)
3	保育実習の目的と理解②(施設)(渡邊)	13	実習日誌の作成・記録②(応用)(渡邊)
4	保育園実習に関する基礎的理解(大津)	14	保育所実習日誌等の記入の仕方(大津)
5	保育実習園の選定について(施設)(渡邊)	15	指導計画書の作成①(基礎)(大津)
6	保育実習園の選定について(保育園)(大津)	16	指導計画書の作成②(応用)(大津)
7	保育所における保育内容①(0～2歳児)(大津)	17	保育所・施設見学実習(大津・渡邊)
8	保育所における保育内容②(3歳以上児)(渡邊)	18	施設実習に関する基礎的理解(渡邊)
9	保育所における保育内容③(デイリースケジュール)(大津)	19	施設における保育内容と養護①(児童福祉施設)(渡邊)
10	保育所と幼稚園の違い①(1日の流れ・目的)(大津)	20	施設における保育内容と養護②(その他の施設)(渡邊)
21	施設実習日誌等の記入の仕方①(児童福祉施設)(渡邊)	22	施設実習日誌等の記入の仕方②(その他の施設)(渡邊)
23	施設実習に際しての基本的な注意事項①(児童福祉施設)(渡邊)	24	施設実習に際しての基本的な注意事項②(その他の施設)(渡邊)
25	保育実習に向けての具体的な準備①(教材研究)(大津)	26	保育実習に向けての具体的な準備②(グループ発表A)(大津)
27	保育実習に向けての具体的な準備③(グループ発表B)(大津)	28	保育実習に向けての具体的な準備④(卒業生の講演会・交流会)
29	保育実習事前ガイダンス(渡邊)	30	保育実習Ⅱ・Ⅲに向けての課題と学習目標(大津)
成績評価方法	①実習事前・事後レポート 30% ②定期試験 20% ③課題レポート20%		
④授業への積極的な参加(学内ガイダンスや見学実習など実習に関わる活動への参加は必須。全体の5分の4以上の出席は必須) 30%			
テキストおよび参考図書	田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円／内閣府文部科学省厚生労働省『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社、2017年、540円／石橋裕子・林幸範 編著『改訂版知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円／厚生労働省『保育所保育指針解説書(平成30年)』フレーベル社、2018年、346円		

科 目	保育実習事前事後指導Ⅱ	開講時期：2年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 大 津 泰 子	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習事前事後指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。 		
授業の概要	保育実習Ⅰ（保育所実習）での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。そして、それに基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、保育実習Ⅱに関する目的を明確にし、保育実習Ⅱの終了には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。 学習方法として、保育実習Ⅱに向けて保育に関する知識や技術をさらに高めるために、教材研究などの実践と資料等を用いて保育所の理解を深めるための学習を行う。また、保育士としての倫理観を理解し、保育士としての自己課題を明確化するためのレポート作成や発表会を行う。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの保育所実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・手遊び、歌遊びなどの教材を準備しておくこと ・授業後にレポートを作成し、学習内容の理解を深める。 <p style="text-align: right;">（各回授業の予習・復習時間は60分）</p>		
授 業 計 画		8	指導計画の作成②（3歳児以上）
1	保育実習Ⅰ（保育所実習）の振り返り①（自己評価）	9	教材研究①（発表 グループA）
2	保育実習Ⅰ（保育所実習）の振り返り②（学習目標の設定）	10	教材研究②（発表 グループB）
3	保育所の役割と機能	11	教材研究③（発表 グループC）
4	保護者・家庭への支援と地域社会との連携	12	保育実習Ⅱに向けた総理解
5	子どもの保育の理解 0～2歳児	13	保育実習Ⅱに関する注意事項
6	子どもの保育の理解 3歳以上児	14	保育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化
7	指導計画の作成①（0～3歳未満児）	15	保育実習Ⅱに関する自己評価
成績評価方法		①実習事前・事後レポート 20% ②定期試験 20% ③レポート 20% ④教材研究等の発表 20% ⑤積極的な授業への参加（自発的な発表、学内ガイダンスへの出席は必須。全体の5分の4以上の出席は必須）20%	
テキストおよび参考図書 田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円／内閣府文部科学省厚生労働省『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド社、2017年、540円／石橋裕子・林幸範 編著『改訂版知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円／厚生労働省『保育所保育指針解説書（平成30年）』フレーベル社、2018年、346円			

科 目	保育実習事前事後指導Ⅲ	開講時期：2年・前期	履修区分：選択
		授業形態：演習	
担 当 者	講 師 渡 邊 暁	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解を深める。 ②保育実習Ⅲに対する心構えを持ち、実習課題を明確にできる。 ③保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 ④保育実習Ⅲの事後指導として、自己評価を行い、保育士としての自己の課題を明確にできる。 		
授業の概要	この教科では、保育実習Ⅰ（施設実習）での自己評価と課題・学習目標について再度確認する。そして、それに基づき、具体的な事例を通して、実習計画作成、日誌の記録などより実践的な内容を学習する。さらに、保育実習Ⅲの終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。 学習方法として、保育実習Ⅲに向けて、養護と療育に関する知識や技術をさらに高めるために、教材研究などの実践と資料等を用いて、児童福祉施設の理解を深めるための学習を行う。また、保育士としての倫理観を理解し、保育士としての自己課題を明確化するためのレポート作成や発表会を行う。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰの施設実習の反省点や自分の課題をまとめておくこと。 ・絵本やペープサート、運動遊びなどの保育実技を学習すること。 ・授業後にレポートを作成し、学習内容を深める。 <p style="text-align: right;">（各回授業の予習・復習時間は60分）</p>		
授 業 計 画		8	実習日誌の記入の仕方
1	保育実習Ⅰ（施設実習）の目的と内容	9	児童養護施設における支援
2	保育実習Ⅰ（施設実習）における実習課題の明確化	10	乳児院・母子生活支援施設における支援
3	児童福祉施設の役割と機能	11	障害児・者施設における支援
4	家族への支援と地域社会との連携	12	保育実習Ⅲに向けた総理解
5	子どもの最善の利益と養護の理解①	13	保育実習Ⅲに向けた総理解に関する注意事項
6	施設と利用者を取り巻く環境	14	保育実習Ⅲに向けた自己課題の明確化
7	自立支援計画の作成	15	授業の振り返り
成績評価方法		①実習事前・事後レポート 20% ②定期試験 20% ③レポート 20% ④教材研究等の発表 20% ⑤授業への参加（学内ガイダンスへの参加は必須。全体の5分の4以上の出席は必須）20%	
テキストおよび参考図書 田上哲『通信教育テキスト 保育実習事前事後指導』近畿大学九州短期大学、500円 石橋裕子・林幸範編著『新訂版 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』同文書院、2017年、2,160円 太田光洋編著『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド第2版』ミネルヴァ書房、2015年、3,456円			

科 目	発 達 心 理 学	開講時期：2年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 木下寛子	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	1. 保育実践に即した心理学の知識として以下の2点を学ぶ。 (1) 子どもの発達の心理学の基礎を学ぶ (2) 関係の中で子どもが育つことを具体的に理解する。 2. 「生涯発達」という観点から子どもの発達・初期経験を理解し、日々の保育実践との関連性を考察できるようになる。		
授業の概要	子ども達は、関係の中に生まれ落ち、人生をスタートさせていきます。一方の受講者の皆さんは、その人生の過程を、関わり育む者の一人（保育士）として、新たに踏み出そうとしています。本講義では、関係発達としての生涯発達という視野から、子どもを理解し、その関わり手になることの意味を考えていきたいと思えます。		
事前学習及び事後学習	【予習】①子どもと関わり手（養育者・保育者など）の日常的な姿をよく見て、見たことと考えたことをメモしておくことをおすすめする。②授業前にはシラバスに記載のキーワードを必ず確認し、言葉を覚えておくこと。 【復習】学んだ内容をキーワードを中心によく吟味し、子どもの育ちに関する具体的事象を挙げて、自分なりにその理解ができるようになるように努めること。 （各回授業の予習・復習時間は60分）		
授 業 計 画	8	人との相互的にかかわりと子どもの発達：基本的信頼感の獲得	
1	オリエンテーション：育てられる者から育てる者へ	9	人との相互的にかかわりと子どもの発達：他者とのかかわり
2	保育と心理学：子どもの発達を理解することの意義	10	人との相互的にかかわりと子どもの発達：社会的相互作用
3	子どもの発達理解：子どもの発達と環境	11	生涯発達と初期経験(1)生涯発達という視点——乳幼児期のその後
4	子どもの発達理解：感情の発達と自我	12	生涯発達と初期経験(2)関係発達の視点(「今、ここ」と「長い目」)
5	子どもの発達理解：身体的機能と運動機能の発達	13	生涯発達と初期経験(3)青年期／保育者になること
6	子どもの発達理解：知覚と認知の発達	14	保育と心理学：保育実践の評価
7	子どもの発達理解：言葉の発達と社会性	15	保育と心理学：発達観、子ども観と保育観
成績評価方法	期末筆記試験：60%、基礎知識に関する小テスト・レポート：20%、授業への積極的参加：20%		
テキストおよび参考図書	指定しない、随時資料を配布する。 参考図書：杉村・白川・清水「保育の心理学I(基本保育シリーズ)」2015 中央法規 2160円		

科 目	青 年 心 理 学	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	講 師 橋 本 翼	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	・乳幼児期から青年期に至る発達の連続性を理解し説明できる。 ・青年期の発達課題や精神病理に関する知識を獲得し、自己理解を深める。		
授業の概要	青年期の発達の特徴、身体の発達、知的発達、自己形成、人間関係の発達、社会的発達、青年期への心理的援助等について講義、グループワークを通じて学んでいく。		
事前学習及び事後学習	日ごろからニュースなどを通し、青年期特有の問題行動や社会問題などに関する情報をチェックするようにしておき、「どうしてそういうことが起こるのか」という点について、自分なりに考えていくようにすること。 （各回授業の予習・復習時間は60分）		
授 業 計 画	8	青年期の友人関係	
1	青年心理学とは(イントロダクション)	9	青年期の恋愛と結婚
2	青年心理学の歴史	10	親になるということ(青年期から成人期へ)
3	青年期の心身の発達	11	青年と現代文化
4	思春期の心理	12	青年期と精神疾患
5	青年期の自己形成(アイデンティティの獲得)	13	青年期のメンタルヘルス
6	演習：アイデンティティについて考える	14	グループ討議
7	青年期における自立(家族との関係)	15	青年心理学を保育実践に生かす
成績評価方法	小テスト(20%)＋授業への積極的参加(演習への参加、感想含む)(20%)＋試験(60%)		
テキストおよび参考図書	特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献：白井 利明 編 『よくわかる青年心理学』ミネルヴァ書房 2006年		

科 目	乳 幼 児 心 理 学	開講時期：1年・後期	履修区分：保育士選択
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 木下寛子	単位数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	1. 生活の中での子どもの心身の発達を理解する。 2. 子どもと生活を共にする保育者の「発達援助」とは何かを考えられるようになる。		
授業の概要	生活の場にフォーカスして、その中での子どもの心身の発達をどう理解するか、子どもを見る目を養うと共に、子どもの育ちを支える場と人の在り方を解きほぐし、理解します。子どもと生活の場の可能性と制約について考え、今、子どもが育つことの意味、子どもに関わることの可能性と、それらにとっての生活の場が持つ意味を考えていきます。		
事前学習及び事後学習	【予習】①子どもと関わり手（養育者・保育者など）の日常的な姿をよく見て、見たことと考えたことをメモしておくことをおすすめする。②授業前にシラバスに記載のキーワードを必ず確認し、言葉を覚えておくこと。【復習】学んだ内容をキーワードを中心によく吟味し、子どもの育ちに関する具体的事象を挙げて、自分なりにその理解ができるようになるように努めること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画	8	子どもの発達と保育実践(1)環境としての保育者と子どもの発達	
1	乳幼児心理学の射程：子どもの生活世界	9	子どもの発達と保育実践(2)子ども相互のかかわりと関係作り
2	生活や遊びから学び育つこと(1)子どもと遊び:「あそんでぼくらは人間になる」	10	子どもの発達と保育実践(3)子ども集団と保育の環境
3	生活や遊びから学び育つこと(2)生活し遊ぶ中から学び育つこと:学校が始まるまでの6年間	11	保育における発達援助(1)基本的生活習慣の獲得
4	生活や遊びから学び育つこと(3)生活し遊ぶ中から学び育つこと:手持ちの力でやりくりすること(子どもの生活世界)	12	保育における発達援助(2)「主体性」って何?(主体性の形成)
5	子どもの発達(1)子ども理解における発達の把握:発達理解の一般的方法	13	保育における発達援助(3)「平均的な発達」とは
6	子どもの発達(2)発達過程と個人差	14	保育における発達援助(4)発達の連続性と就学への支援
7	子どもの発達(3)身体感覚を伴う経験と環境との相互作用	15	保育における発達援助(5)「発達の援助」とは?
成績評価方法	期末筆記試験：60%，基礎知識に関する小テスト・レポート：20%，授業への積極的参加：20%		
テキストおよび参考図書	指定しない。随時資料を配布する。参考図書：鯨岡 峻・鯨岡 和子「よくわかる保育心理学」(やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) ミネルヴァ書房 2004年 2592円 (2,400円+税)		

科 目	子 童 母 の 保 健 I	開講時期：2年・通年	履修区分：保育士必修		
		授業形態：講義			
担 当 者	非常勤講師 佐藤文子	単位数：4単位	授業回数：30回		
		オフィスアワー：授業終了後			
到達目標	・子どもの保健活動の重要性及び子どもの心身の発達段階の特徴について述べる事ができる。 ・よくみられる病気・事故の原因・症状・対策について説明できる。 ・保育現場の安全対策、保健指導について説明できる。				
授業の概要	子どもの保健の重要性及び子どもを取り巻く問題、今後の課題について解説する。生命誕生から発達段階各期の特徴について講義を進める。子どもによくみられる病気・事故の原因・症状・対策について解説をする。				
事前学習及び事後学習	インターネット、テレビ等でよく報道されている子どもに関する事柄について考えてみる。 授業内容の振り返りを少しづつでも続ける。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授業計画	11	運動器の発達	21	よくみられる病気と予防 消化器・腎・泌尿器・生殖器	
1	学習目標・評価・注意事項等	12	生理機能の発達 体温・呼吸・循環	22	よくみられる病気と予防 消化器・腎・泌尿器
2	子どもの保健とは 重要性	13	生理機能の発達 消化吸収・排泄・水分代謝	23	よくみられる病気と予防 アレルギー
3	子どもを取り巻く現状 問題と課題	14	生理機能の発達 免疫機能・睡眠	24	よくみられる病気と予防 神経系・運動器・感覚器
4	子どもの健康と健康指標 保健行政	15	精神機能の発達 前期のまとめ	25	子どもの事故(屋内) 予防と安全対策・危機管理
5	受精 人の成り立ち	16	後期授業計画 子どもの栄養	26	子どもの事故(屋外) 予防と安全対策・危機管理
6	子どもの成長・発達・発育 発育の区分	17	よくみられる病気と予防 特徴 先天異常	27	子どもの精神保健Ⅰ 生活環境と精神保健
7	身体発育と評価 身長・体重	18	よくみられる病気と予防 感染症Ⅰ(ウイルス)症	28	子どもの精神保健Ⅱ 心の健康とその課題
8	身体発育と評価 頭囲 胸囲 骨 歯	19	よくみられる病気と予防 感染症Ⅱ(細菌)	29	子どもの保健行政Ⅰ 保健対策
9	身体発育に影響を及ぼす因子	20	よくみられる病気と予防 呼吸器・循環器・血液	30	子どもの保健行政Ⅱ 各機関との連携 まとめ
10	脳・感覚器の発達				
成績評価方法	定期試験(60%) レポートの内容(20%) 授業への参加態度(20%)				
テキストおよび参考図書	・テキスト 西村昴三(編著)『わかりやすい子どもの保健』同文書院 2015年 2,200円 ・参考図書 竹内義博・大矢紀昭(編著)『よくわかる子どもの保健』ミネルヴァ書房 2015年 2,600円 他				

科 目	子どもの保健Ⅱ	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	非常勤講師 田 嶋 理恵子	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる。		
授業の概要	学生同士、モデル人形を使用し、グループワーク、グループ討議を行い身近な疾患やケガ事故に対処できるように演習を進めていく。(DVD学習を含む)		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前テキストに目を通しておくこと。 ・毎回の実習後にレポートを作成し、次回提出すること。 ・欠席者は次回レポートを提出すること。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	食事(ミルクの与え方)・清潔(沐浴の仕方)
1	保育における保健活動	9	沐浴(モデル人形を使つての演習)
2	子どもの健康と集団の保健	10	感染の予防と対策
3	身体測定・バイタルサインの測定(モデル人形での演習)	11	吐物の処理・手洗いの演習
4	子どもの生活習慣と心身の健康	12	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
5	子どもの発達援助と保健活動	13	けがや急な病気への対応(DVD学習を含む)
6	抱き方・おむつの当て方 排泄の自立支援	14	子どもに起こりやすい症状とケア
7	抱き方・おむつの当て方(モデル人形での演習)	15	心とからだの健康問題
成績評価方法		試験：50% レポート：30% 演習・実習：20%	
テキストおよび参考図書		テキスト『子どもの保健Ⅱ』佐藤益子／中根淳子編(ななみ書房)2,200円	

科 目	家庭支援論	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 木 下 寛 子	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちにとっての家庭という単位と、家庭を取り巻く社会状況を理解する。 2. 現代の子育て・保育の在り方を相対化して理解する基礎を形成する。 3. 子育てを巡る悩みを踏まえ、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 		
授業の概要	子どもが育ちゆく基本的な単位として、現代社会では家庭という場が大事にされています。そして保育者は今、その支援者の一人になることを強く求められています。本講義では子育ての現場となる家庭の在り方と保護者に生じてくる思いの多様さを理解しつつ、支えるための広範な知識と手立てを考えていきます。また現代の子育てを巡って、少し風通しのよい眼差しを持って考えるための道を探りたいと思います。		
事前学習及び事後学習	<p>【予習】①子どもの育ちと家庭に関する話題は、メディアはもちろん、日常の場にもあふれている。常にこれらの話題に敏感であること。②事前に提示するキーワードを頭に入れておくこと。【復習】学んだ内容をキーワードを中心によく吟味し、子どもの育ちに関する相談事例に対して、いくつもの理解や手立ての可能性を言語化できるように、書いたり話したりして考察を深める。</p> <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	子育て支援の実態①：資料・文献調査
1	家庭支援の意義と役割(1)家庭という場・家庭支援の必要性	9	子育て支援の実態②：発表と意見交換
2	家庭支援の意義と役割(2)保育士等が行う家庭支援の原理	10	多様な支援の展開(1)子育て支援サービスの概要
3	子育て家庭の現状①：資料・文献調査	11	多様な支援の展開(2)保育所入所児童の家庭への支援
4	子育て家庭の現状②：発表と意見交換	12	多様な支援の展開(3)地域の子育て家庭への支援
5	家庭生活を取り巻く社会的状況(3)地域社会の変容と家庭支援	13	多様な支援の展開(4)要保護児童及びその家庭に対する支援
6	子育て家庭の支援体制(1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源	14	関係機関との連携：子育て支援における関係機関との連携
7	子育て家庭の支援体制(2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	15	発達心理学・社会史から見えてくる「子育て支援」の課題
成績評価方法		期末筆記試験：60%、基礎知識に関する小テスト・レポート：20%、授業への積極的参加：20%	
テキストおよび参考図書		テキスト：菅野幸恵「あたりまえの親子関係に気付くエピソード65」新曜社、2012年、2052円 (参考図書：小田・日浦・中橋「家庭支援論・新版」北大路書房、2014年)	

科 目	子どもの食と栄養		開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修	
			授業形態：演習		
担 当 者	教授 八尋美希		単位数：2単位	授業回数：30回	
			オフィスアワー：木曜日4限目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをめぐる環境と食生活についての現状と問題を把握する。 ・小児の栄養に関する基本的知識と発育・発達との関連性と重要性を理解する。 ・食品の基礎知識を学び、乳幼児期の発育発達に応じた調理の方法や食事について理解し、実践に繋がられるようになる。 ・保育者としての食育の必要性や食育計画についての理解を深め、立案できるようになる。 				
授業の概要	小児期の生理学的特徴を知り、発育・発達にはその段階に応じた栄養を摂取することを食品と調理の学習を通して、食事の重要性を学ぶ。食に関する問題から保育者も自らの食生活を振り返り、食育を実践出来る力を演習形式から学び、食育を活動および展開する重要性と実践力を養う。				
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する話題を新聞やテレビ、食に関する雑誌に目を向け、関心を高めておくこと。 ・これまでの施設実習での食に関する課題をまとめておく。 ・授業後に講義と実習との関連をレポートで復習し、提出すること。 (各回授業の予習・復習時間は60分) 				
授 業 計 画					
1	食えることとは－小児栄養の特徴	11	乳児期栄養と食生活(4)－離乳後期	21	学童期－思春期栄養と食生活(1)－肥満
2	子どもの食生活の現状と課題	12	乳児期栄養と食生活(5)－完了期	22	学童期－思春期栄養と食生活(2)－偏食
3	栄養素の種類と機能	13	幼児期栄養と食生活(1)－1, 2歳児	23	妊産婦栄養と食生活(1)－妊娠期的特徴
4	食べ物の消化吸収と食事摂取基準	14	幼児期栄養と食生活(2)－3～5歳児	24	妊産婦栄養と食生活(2)－食事の内容
5	食品の成分と分類(食品群)	15	幼児期栄養と食生活(3)－間食	25	集団給食演習
6	食品の成分と分類(食事バランスガイド)	16	幼児期栄養と食生活(4)－偏食、食欲不振	26	衛生管理と食事計画－食材と栄養
7	食育基本法、食育の内容	17	幼児期栄養と食生活(5)－弁当	27	衛生管理と食事計画－作業工程計画
8	乳児期栄養と食生活(1)－調乳	18	幼児期栄養と食生活(6)－行事食	28	実習－弁当
9	乳児期栄養と食生活(2)－離乳初期	19	小児期の疾病と食事	29	実習－弁当
10	乳児期栄養と食生活(3)－離乳中期	20	障害のある小児の食事	30	弁当の考察と食への課題
成績評価方法		授業への積極的参加 20%、試験 50%、提出物(レポート等) 30%			
		突然の欠席や遅刻は演習時に他の班員に迷惑をかけるので、注意しよう。			
テキストおよび参考図書		プリント配布・テキスト『保育ライブラリ 子どもの食と栄養』高野陽 二見大介編 北大路書房			

科 目	保育内容総論		開講時期：1年・前期	履修区分：保育士必修
			授業形態：演習	
担 当 者	准教授 垂見直樹		単位数：1単位	授業回数：15回
			オフィスアワー：月曜日5限目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①保育内容の史的展開を踏まえ、保育所保育と子どもをめぐる現状と課題について説明することができる。 ②保育所保育の役割、環境を通して行う保育、保育における遊びの位置づけなどの基本原理について説明でき、実践に反映できる。 ③保育の総合性を踏まえ、指導計画を立案し、実施することができる。 ④子どもの最善の利益について複眼的に思考し、保育実践を批判的に検討することができる。 			
授業の概要	保育士資格の必修科目である。『保育所保育指針解説書』を中心に、保育をめぐる基礎知識を習得し、基本原理を理解することを目指す。同時に、基本原理を踏まえ、指導計画を立案し、実践する力を養う。講義形式の他、グループワークや受講生同士の議論を通して、保育実践を構築し、批判的に検討できる力の素地を培う。			
事前学習及び事後学習	授業内容について復習すること。『保育所保育指針解説書』を扱う場合には、次回授業での学習箇所を予告するので、事前に目を通して授業に臨むことが望ましい。(各回授業の予習・復習時間は60分)			
授 業 計 画				
		8	保育の総合性とは何か－保育内容の理解②	
1	オリエンテーション－授業の進め方・講義の全体像・評価方法等について－	9	指導計画立案の考え方・書き方の基本	
2	日本における子ども・子育てをめぐる現状と課題－保育の基礎知識①	10	模擬保育に向けた指導計画立案(グループワーク)	
3	幼稚園・保育所の成立－保育の基礎知識②	11	模擬保育の実践と検討(グループワーク)①	
4	保育方法の史的展開と現状－保育の基礎知識③	12	模擬保育の実践と検討(グループワーク)②	
5	保育所保育の目的・役割－保育の基本原理①	13	模擬保育の実践と検討(グループワーク)③	
6	保育所保育とは何か－保育の基本原理②	14	子どもの「最善の利益」とは－保育所保育をめぐる論点の整理	
7	保育内容「ねらい」・「内容」の意味－保育内容の理解①	15	小学校との接続・共生の保育	
成績評価方法		提出物(小レポート等)：30%、学期末試験：70%		
テキストおよび参考図書		<ul style="list-style-type: none"> ・開仁志編著『マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論』、2016年、保育出版社、2,270円(税別) ・厚生労働省、『保育所保育指針解説書』、2008年、フレーベル館、205円 ・参考図書は授業中に紹介する。 		

科 目	乳 児 保 育		開講時期：2年・通年	履修区分：保育士必修	
			授業形態：演習		
担 当 者	准教授 木下寛子		単位数：2単位	授業回数：30回	
			オフィスアワー：授業終了後		
到達目標	1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。 2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。				
授業の概要	本演習は、3歳までの子ども達の成長の過程と、それに即した保育のための「目と手」を1年かけて養っていく演習です。前期では、生まれて劇的な変化を遂げていく約3年の子ども達の発達のプロセスを学び、後期は、子どもが育つ場と、その連携の在り方を学ぶと共に、保育者としての関わりについて身体を通して掘り進みます。本授業は演習という性格上、積極的な参加を期待します。				
事前学習及び事後学習	事前準備（道具や材料、身支度）が必要となる場合や、調べ物や下ごしらえを必要とする場合があります。随時お知らせしますので、必ず準備を整えてください。復習としては、学んだ内容を整理する課題を課します。実習や見学、日常での観察や経験も含めて良く整理し、自分の目と手を養うように心がけてください。（各回授業の予習・復習時間は60分）				
授 業 計 画					
1	乳児保育とは何か	11	1歳3か月～2歳未満児の発達(資料調査)	21	抱っこ授乳
2	乳児保育の理念と概念	12	1歳3か月～2歳未満児の保育内容(概観)	22	乳児の衣服と着替え
3	乳児保育の歴史	13	2歳の子どもの発達(資料調査)	23	排泄・沐浴
4	乳児保育の基礎知識(「有能な赤ちゃん」)	14	2歳の子どもの保育内容(概観)	24	離乳食
5	乳児保育の基礎知識(愛着概念)	15	発達過程と保育内容の総括	25	生活と遊びのデザイン
6	乳児保育の基礎知識(3年の発達を見通す)	16	乳児保育の場と保育者(イントロ)	26	生活と遊びのデザイン
7	6か月未満の子どもの発達(資料調査)	17	保育所における乳児保育	27	保育課程に基づく指導計画の作成
8	6か月未満の子どもの保育内容(概観)	18	認定こども園と乳児保育	28	保護者とのパートナーシップ
9	6か月～1歳3か月未満児の発達(資料調査)	19	乳児院における乳児保育	29	保育者の協働
10	6か月～1歳3か月未満児の保育内容(概観)	20	家庭的保育等における乳児保育	30	後期まとめ
成績評価方法		試験：50%、 課題・レポートの提出・評価：30%、 授業への積極的参加：20%			
テキストおよび参考図書		テキスト：志村聡子（編）、「はじめて学ぶ乳児保育」、同文書院、2009年、2160円 厚生労働省（編）、「保育所保育指針解説書」、フレーベル館、2008年、216円			

科 目	障 害 児 保 育		開講時期：2年・通年	履修区分：保育士必修	
			授業形態：演習		
担 当 者	講 師 橋 本 翼		単位数：2単位	授業回数：30回	
			オフィスアワー：木曜日5限目		
到達目標	・障がい児保育の対象となる障がいの特徴を理解する。 ・障がい児保育の実際や保護者への支援に関する基礎的な知識を理解する。				
授業の概要	障がい児保育の歴史から取り組み、各障がいを抱えた子どもの特徴を学び、支援の実際を学ぶ。また保護者への支援についても学ぶ。テキスト、配布資料に沿って、講義とグループ討議を行う。				
事前学習及び事後学習	障がいのある子どもについてのニュースやドキュメンタリー番組などにも関心を向けておくこと。障がいに関する本を読んでおくこと。（各回授業の予習・復習時間は60分）				
授 業 計 画					
1	障がい児保育とは何か	11	ADHDの特徴	21	心理検査について
2	障がい児保育の歴史と理念	12	ADHDの子どもへの支援	22	障がい児保育の計画
3	障がい児保育の対象	13	学習障害の特徴	23	就学に向けた支援
4	障がい児保育の生活に関する保育方法	14	学習障害の子どもへの支援	24	関係機関との連携・共働
5	乳幼児期の心身の発達	15	行動と情動の調節の難しい子ども	25	保護者への支援①気持ちの理解
6	乳幼児期の発達の問題	16	言葉の遅れのある子どもの保育	26	保護者への支援②支援の実際
7	知的遅れのある子どもの保育	17	視覚障がい児の特徴と支援	27	きょうだいへの支援
8	身体の不自由な子どもの保育	18	聴覚障がい児の特徴と支援	28	保護者の声から学ぶ
9	自閉症の特徴	19	情緒障害の特徴	29	子どもの心に寄りそうために(演習)
10	自閉症の子どもへの支援	20	情緒障害への支援	30	障がい児保育の実際
成績評価方法		授業への積極的参加（20%）＋演習の中での個人発表（20%）＋試験結果（60%）			
テキストおよび参考図書		参考資料：渡辺信一、本郷一夫、無藤隆編著『障害児保育』、北大路書房、2009、1700円。 適宜資料を配布する。			

科 目	社会的養護内容	開講時期：2年・前期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	講 師 渡 邊 暁	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	社会的養護の原理と原則を踏まえて、以下の3点に重点を置く。 1. 社会的養護施設の機能と役割を説明できる。 2. 自立支援計画や養護計画の理解と簡単な作成を行える。 3. 事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べるができる。		
授業の概要	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の拡がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。		
事前学習及び事後学習	事前学習として新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起きていることを情報収集する。また、テキストや配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。事後学習として様々は課題に対して、個人またはグループで検討しレポートを提出する。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	障害児施設（入所・通所）の療育と支援の実際
1	児童の権利擁護 児童の最善の利益について考える	9	自立支援計画 子どもへの支援における記録について
2	里親制度の特性と養育の実際	10	里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり
3	乳児院の養育をめぐる状況と支援の実際	11	虐待された子どもへの支援
4	児童養護施設の養育をめぐる状況と支援の実際	12	施設と家族との関わり 親子関係の調整
5	ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際	13	施設と地域との連携について
6	ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際	14	児童福祉施設における課題
7	情緒障害のある子どものための施設と支援の実際	15	授業内容の振り返り
成績評価方法		・試験結果50%・レポート課題30%・授業への積極的参加20%	
テキストおよび参考図書		『児童の福祉を支える社会的養護内容』吉田眞理編著、萌文書林、2016年、2,160円 『よくわかる社会的養護内容 第3版』小木曾宏・宮本秀樹・鈴木崇之編、ミネルヴァ書房、2015年、2,592円	

科 目	保育相談支援	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 木下寛子	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。		
授業の概要	子どもの最善の利益を守ることは、子どもが育つ場を大事に守り育てることを意味すると言っても過言ではありません。本講義は、保育者としてそのためにできることを考え、そのための基本的な知識と手立てを身に着ける足掛かりを形成します。講義では保育相談支援の基本的知識や方法を、グループワークでは具体的な事例を通じて保育相談に必要な態度や探っていきます。		
事前学習及び事後学習	【予習】①子どもの育ちと家庭に関する話題は、メディアはもちろん、日常の場にもあふれている。常にこれらの話題に敏感であること。②事前に提示するキーワードを頭に入れておくこと。【復習】子どもの育ちに関する事例に対して、いくつもの理解や手立ての可能性を言語化できるようにして考察を深める。また、支援のための基本的な態度については、日常のコミュニケーションの中で習慣化するように努める。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	保育相談支援の実際(1)保育に関する保護者に対する指導
1	保育相談支援の意義(1)保育相談支援とは(イントロダクション)	9	保育相談支援の実際(2)保護者支援の内容
2	保育相談支援の意義(2)保育の特性と保育士の専門性を生かした支援	10	保育相談支援の実際(3)保護者支援の方法と態度
3	保育相談支援の基本(1)子どもの最善の利益と福祉の重視	11	保育相談支援の実際(4)保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
4	保育相談支援の基本(2)子どもの成長の喜びの共有	12	保育所における保育相談支援の実際
5	保育相談支援の基本(3)保護者の養育力の向上に資する支援	13	保育所における特別な対応を要する家庭への支援
6	保育相談支援の基本(4)受容のかかわり、自己決定、秘密保持の尊重	14	児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
7	保育相談支援の基本(5)地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力	15	障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援
成績評価方法		試験：60%、授業時の小レポートや発表：20%、授業への積極的な参加：20%	
テキストおよび参考図書		テキスト：浜田寿美男、「親になるまでの時間・前編」、ジャパンマシニスト、2017年、1728円 (参考図書：福丸由佳・安藤智子・無藤隆(編著)「保育相談支援」北大路書房、2011年)	

科 目	ピ ア ノ I	開講時期：1年・前期	履修区分：保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	教授 久世 准教授 平松 講師 立畑 非常勤講師 香月 久我 村中	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	保育者・教育者として必要な、基礎的なピアノ演奏技術読譜力を習得する。 ピアノを弾くための指の基礎を作り、バイエル程度の難易度のピアノ曲を演奏することができる。また、子どもの歌を簡易伴奏及びコード伴奏で弾くことができる。ト音譜表及び音譜表を即時に読むことができる。		
授業の概要	ピアノを弾くための基礎習得に主眼を置き、指のためのテクニック、ピアノ練習曲、附属幼稚園実習曲、子どもの歌の伴奏法を学ぶ。また、読譜力が身に付くよう、音符カードを使ったトレーニングや読譜ドリルを行う。 個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習を進めていく。		
事前学習及び事後学習	毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	ト長調のコード②、実習曲②、読譜トレーニング⑧
1	授業説明、ハ長調のコード①、基礎練習曲①、読譜トレーニング①	9	ト長調のコード③、実習曲③、読譜トレーニング⑨
2	ハ長調のコード②、基礎練習曲②、読譜トレーニング②	10	ハ長調のコード①、子どもの歌簡易伴奏①、読譜トレーニング⑩
3	ハ長調のコード③、基礎練習曲③、読譜トレーニング③	11	ハ長調のコード②、子どもの歌簡易伴奏②、読譜トレーニング⑪
4	ハ長調のコード④、基礎練習曲④、読譜トレーニング④	12	ハ長調のコード③、子どもの歌簡易伴奏③、読譜トレーニング⑫
5	ハ長調のコード⑤、基礎練習曲⑤、読譜トレーニング⑤	13	二長調のコード①、子どもの歌簡易伴奏④、読譜トレーニング⑬
6	ト長調のコード①、実習曲①、読譜トレーニング⑥	14	二長調のコード②、試験曲練習①、読譜トレーニング⑭
7	ト長調のコード②、実習曲①、読譜トレーニング⑦	15	二長調のコード③、試験曲練習②、読譜トレーニング⑮
成績評価方法		実技試験：70% 授業への積極的参加：30%	
テキストおよび参考図書		ピアノ教本 500円、プリント配布	

科 目	ピ ア ノ II	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	教授 久世 准教授 平松 講師 立畑 非常勤講師 香月 久我 村中	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	保育者・教育者として必要な、ピアノ技術の応用力及びピアノ弾き歌い技術読譜に関する応用力を習得する。 指のテクニックをさらに強化するとともに、様々な子どもの歌の弾き歌いができるようになる。 簡易伴奏にアレンジして弾くことができる。		
授業の概要	季節の歌、生きものの歌、生活・行事の歌など、様々な子どもの歌の弾き歌いに取り組む。 個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習を進めていく。読譜力のさらなる強化のため、継続して読譜トレーニングを行う。 保育実習・教育実習及び採用試験対策もおこなう。		
事前学習及び事後学習	毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	二長調のコード復習①、子どものうた(夏の歌①)、読譜トレーニング⑧
1	授業説明、夏休み課題のグループ内発表、読譜トレーニング①	9	二長調のコード復習②、子どものうた(夏の歌②)、読譜トレーニング⑨
2	ハ長調のコード復習①、子どものうた(秋の歌①)、読譜トレーニング②	10	イ短調のコード①、子どものうた(生き物の歌①)、読譜トレーニング⑩
3	ハ長調のコード復習②、子どものうた(秋の歌②)、読譜トレーニング③	11	イ短調のコード②、子どものうた(生き物の歌②)、読譜トレーニング⑪
4	ト長調のコード復習①、子どものうた(冬の歌①)、読譜トレーニング④	12	子どものうた(生活・行事の歌①)、読譜トレーニング⑫
5	ト長調のコード復習②、子どものうた(冬の歌②)、読譜トレーニング⑤	13	子どものうた(生活・行事の歌②)、読譜トレーニング⑬
6	ハ長調のコード復習①、子どものうた(春の歌①)、読譜トレーニング⑥	14	試験曲練習①、読譜トレーニング⑭
7	ハ長調のコード復習②、子どものうた(春の歌②)、読譜トレーニング⑦	15	試験曲練習②、読譜トレーニング⑮
成績評価方法		実技試験：70% 授業への積極的参加：30%	
テキストおよび参考図書		ピアノ教本 500円、プリント配布	

科 目	ピ ア ノ Ⅲ	開講時期：2年・前期	履修区分：保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	教授 久世 准教授 平松 講師 立畑 非常勤講師 香月 久我 村中	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	保育者・教育者として必要な、ピアノ技術、伴奏技術、弾き歌い技術を習得する。 コードネームを見て伴奏を弾くことができるようになる。臨機応変に伴奏をアレンジし、弾き歌いができるようになる。初見演奏（簡単なメロディと伴奏）ができるようになる。		
授業の概要	これまで取り組んできた子どもの歌の譜面をもとに、コードネームを見て伴奏が弾けるよう、さらに臨機応変にアレンジもできるよう、さらなる伴奏および弾き歌い技術の向上をめざす。個人レッスン及びグループレッスンの形態で授業をおこない、個人の進度に合わせて学習をすすめていく。初見演奏ができるよう読譜力の向上を計るためのトレーニングをおこなう。 教育実習対策、採用試験対策もおこなう。		
事前学習及び事後学習	毎回、課題曲の予習・復習をおこなうこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	ト長調のコード②(様々な子どもの歌)、読譜トレーニング⑧
1	授業説明、春休み課題のグループ内発表、読譜トレーニング①	9	ハ長調のコード①(主要3和音で弾く子どもの歌)、読譜トレーニング⑨
2	コードネームの確認、読譜トレーニング②	10	ハ長調のコード②(様々な子どもの歌)、読譜トレーニング⑩
3	ハ長調のコード①(主要3和音で弾く子どもの歌①)、読譜トレーニング③	11	ニ長調のコード①(主要3和音で弾く子どもの歌)、読譜トレーニング⑪
4	ハ長調のコード②(主要3和音で弾く子どもの歌②)、読譜トレーニング④	12	ニ長調のコード②(様々な子どもの歌)、読譜トレーニング⑫
5	ハ長調のコード③(様々な子どもの歌①)、読譜トレーニング⑤	13	イ短調・その他の調のコード(子どもの歌)、読譜トレーニング⑬
6	ハ長調のコード④(様々な子どもの歌②)、読譜トレーニング⑥	14	試験課題対策・採用試験対策①、読譜トレーニング⑭
7	ト長調のコード①(主要3和音で弾く子どもの歌)、読譜トレーニング⑦	15	試験課題対策・採用試験対策②、読譜トレーニング⑮
成績評価方法		実技試験：70% 授業への積極的参加：30%	
テキストおよび参考図書		ピアノ教本 500円、プリント配布	

科 目	音 楽 (声 楽)	開講時期：1年・通年	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 久 世 安 俊	単 位 数：2単位	授業回数：30回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	・保育現場、教育現場に必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示すことができる。 ・基礎的な楽典を理解し、読譜ができる。 ・「声」についてのイメージを深め、歌唱による表現法や指導法を習得する。		
授業の概要	子どもの歌（毎回）やコールユーブンゲンを歌い、発声のメカニズム、音程の感覚を身に付ける。また、基礎的な楽典の解説をし読譜練習や作品解釈を行う。グループによる音楽劇の作成・発表を行い、表現技術の向上と表現方法についても検討する。		
事前学習及び事後学習	・日頃から、子どもの歌に興味を持ち、今昔の流行歌を聴くようにする。 ・特に初めて知った曲については、楽譜を見ながら歌うようにする。また階名唱をする。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画			
1	前期オリエンテーション	11	集い歌・コールユーブンゲン(5度)・長音階
2	発声法・校歌指導	12	集い歌・コールユーブンゲン(6度)・調と調号
3	春の歌・譜表	13	生き物歌・コールユーブンゲン(7度)・標語
4	夏の歌・音名	14	生き物歌・楽典まとめ
5	秋の歌・音符と休符・鑑賞	15	歌唱テスト
6	冬の歌・拍子とリズム	16	後期オリエンテーション
7	実習曲歌唱・楽典小テスト	17	弾き歌い①(実習曲)
8	音程・コールユーブンゲン(2度)	18	弾き歌い②(次節の曲)
9	生活の歌・コールユーブンゲン(3度)	19	弾き歌い③(新曲)
10	自然の歌・コールユーブンゲン(4度)・長音階	20	歌唱指導(選曲・指導案作成)
		21	歌唱指導実践①
		22	歌唱指導実践②
		23	音楽劇(グループ分け・劇企画)
		24	音楽劇(台詞合わせ・歌唱練習・工作)
		25	音楽劇(通し練習)
		26	音楽劇発表
		27	音楽劇鑑賞・ディスカッション
		28	合唱(パート分け・音取り)
		29	合唱合わせ
		30	まとめ
成績評価方法		試験：50% 課題・提出物：20% 授業への積極的参加(質問・発表など)：30%	
テキストおよび参考図書		鈴木恵津子他、『ポケットいっぱいのおた』教育芸術社、2014年、2,016円 また、適宜必要なレジュメを配布する。	

科 目	実 技 演 奏		開講時期：1年・後期		履修区分：保育士選択
			授業形態：演習		
担 当 者	教 授 久世 准教授 平松 講 師 立畑 非常勤講師 山下 宮田		単 位 数：1単位		授業回数：15回
			オフィスアワー：金曜日5限目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ以外の楽器に触れ、基礎的な奏法を習得する。 ・音楽会に向けての練習・発表を通して感受性を豊かにし、音楽表現の幅を広げる。 ・アンサンブルを通して協働の必要性を理解する。 				
授業の概要	<p>五つのジャンルから選択し実践する。最終的には総合発表会において演奏を行う。ジャンルは下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器（ヴァイオリン、チェロ、コントラバス） ・管楽器（フルート、クラリネット、サクソフォンほか） ・エレクトーン ・クワイヤーチャイム ・ギター 				
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・会場準備、チューニングを早めに行い、音階練習に伴う運指やボーイングといった基礎を繰り返し練習する。 <p style="text-align: right;">（各回授業の予習・復習時間は60分）</p>				
授業計画			8	基礎練習（パート練習②）	
1	オリエンテーション（ジャンルの選択）		9	中間発表・進捗確認	
2	基礎練習（楽器の取り扱い・仕組みについて）		10	パート練習（直し）	
3	基礎練習（奏法・音階と運指やボーイングなど）		11	アンサンブル（アナリーゼ）	
4	基礎練習（小エチュード）		12	アンサンブル（テンポ・部分練習）	
5	基礎練習（アンサンブル）		13	アンサンブル（バランス確認・通し練習）	
6	基礎練習・総合発表会曲パート分け		14	アンサンブル（通し練習）	
7	基礎練習（パート練習①）		15	最終確認・調整	
成績評価方法			総合発表会評価：70% 授業への積極的参加（質問・中間発表など）：30%		
テキストおよび参考図書			各ジャンルごとに練習曲・演奏曲は配布する。		

科 目	音 楽（器 楽）		開講時期：2年・前期		履修区分：幼免・保育士選択
			授業形態：演習		
担 当 者	准教授 平松 愛子		単 位 数：1単位		授業回数：15回
			オフィスアワー：金曜日5限目		
到達目標	<p>器楽（ピアノ伴奏、楽器演奏）の基礎的な演奏法を理解し、演奏技術の向上を目指す。子どもの歌の簡易伴奏譜及び器楽合奏におけるパート譜の作成ができるようになる。</p>				
授業の概要	<p>子どもの歌の伴奏法を学ぶ。自分のピアノ技術に応じた簡易伴奏譜を作成し、演奏する。保育現場で使われる楽器の基礎的な奏法を学ぶ。合奏譜を作成し、作った合奏譜をもとに合奏をおこなう。</p>				
事前学習及び事後学習	<p>配布資料に目を通しておくこと。作品制作、発表練習を各グループまたは、個人でおこなうこと。</p> <p style="text-align: right;">（各回授業の予習・復習時間は60分）</p>				
授業計画			8	器楽奏法(1) リズム打楽器・音板打楽器演奏法	
1	オリエンテーション、ピアノ伴奏法(1) 伴奏の役割、簡易伴奏について		9	器楽奏法(2) アコーディオン・ハンドチャイム演奏法	
2	ピアノ伴奏法(2) こどもの歌の伴奏1(生活の歌・生きものの歌)		10	器楽合奏(1) 合奏譜の読み方・情報収集	
3	ピアノ伴奏法(3) 季節の歌の伴奏2(季節のうた)		11	器楽合奏(2) 合奏譜の書き方	
4	ピアノ伴奏法(4) 合唱におけるピアノ伴奏		12	器楽合奏(3) 合奏譜の作成	
5	ピアノ伴奏法(5) 簡易伴奏譜についての情報収集		13	器楽合奏(4) 合奏の練習1	
6	ピアノ伴奏法(6) 伴奏譜作成		14	器楽合奏(5) 合奏の練習2	
7	ピアノ伴奏法(7) 伴奏の発表		15	器楽合奏(6) 合奏の発表	
成績評価方法			作成した伴奏譜の記述内容（20%）、歌唱伴奏の発表内容（20%）、楽器の演奏実技（20%）、作成した合奏譜の記述内容（20%）、合奏の発表内容（20%）		
テキストおよび参考図書			平松愛子『ピアノテキスト』、近畿大学九州短期大学、2017年、500円 富田英也他『ポケットいっぱいのおうた』、教育芸術社、2009年、2100円 他、適宜必要なレジュメを配布する。		

科 目	図 画 工 作		開講時期：2年・通年		履修区分：卒業必修
			授業形態：演習		
担 当 者	准教授 竹永 亜矢 講師 堀 和 道		単 位 数：2単位		授業回数：30回
			オフィスアワー：水曜日5限目		
到達目標	周囲の世界を全身の感覚器官を通して感じ、心身ともに成長していく幼児期において、共に感動し、表現する保育者も、子供を育てる大切な環境です。保育者が幼児一人一人の自己表現を受容し、理解できる援助者である事は、幼児の豊かな感性を養うために重要となります。本講義では、学生諸君が様々な素材や表現方法を通して自己を表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む事で、幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守れる保育者の育成と、実践的造形教育指導の習得を目指します。				
授業の概要	授業では、実技課題、講義、鑑賞、作品集作り、レポート、まとめのテストを行います。実技課題としては、身近な素材(絵具・クレパス)を使った楽しい美術表現と技法、その応用制作、環境(壁面)デザインまで、独自の創作活動へ展開する大切さを学びます。後期より、幼児画の発達過程と特徴について理解を深め、幼児期の発達に適した作品課題や、安全な教材作り、コミュニケーション絵遊び、共同制作など、より実践的な課題を行います。また、課題ごとの資料配布と、テストを行う事で教授します。				
事前学習及び事後学習	・演習授業の為、材料、道具は非常に重要です。自分が使用する材料、道具の準備、整理、管理を主体的に行いましょう。 ・制作した作品は、学習の記録であり、世界にひとつだけの作品です。大切に保管し、制作工程、感想を記録して下さい。 ・課題ごとに配布する資料は、まとめのテスト、採用試験の参考になりますので、まとめて保管し活用しましょう。				
授 業 計 画			(各回授業の予習・復習時間は60分)		
1	オリエンテーション(授業内容・準備)	11	絵具遊び「⑤パチック」(はじき絵)	21	クレパスで「スクラッチ」(絵柄の制作)
2	課題③「幼児画表現」家族画・塑造	12	絵具遊び「⑥スパッタリング」(ちぎる・切る)	22	楽しい「フィンガーペインティング」表現療法
3	課題④「幼児画表現」特徴	13	絵具遊び「⑦スパッタリング」(身近な形)	23	「絵遊び」共同制作(コミュニケーション)
4	課題⑤「幼児画表現」縦断的検証(3才～6才)	14	絵具遊び「⑧手型あそび」(共同制作)	24	「絵遊び」平面作品から紙の工作(立体)
5	幼児画表現から学ぶ「表象画」室内を描く	15	筆記テスト・作品集作り	25	「絵遊び」ちぎって・切って(幾何学構成)
6	絵具遊び「①ドリップング②スタンピング③ストリング」	16	開く絵本作り(クレパスの特長を生かして)	26	環境デザイン(共同制作)①構成
7	絵具遊び「④ローリングオブタイプ①～④まとめ作品」	17	「楽しいお面作り」(身近な素材を使って)	27	環境デザイン(共同制作)②制作～仕上げ
8	マッピング「マッピング紙の作成」	18	新聞紙を使った服飾造形(共同制作)①デザイン	28	環境デザイン(共同制作)③展示・鑑賞
9	コラージュ①「マッピング紙を使って」	19	新聞紙を使った服飾造形(共同制作)②発表	29	作品集作り・レポート提出
10	コラージュ②「フロッタージュ」(自然の形)	20	クレパスで「スクラッチ」(色彩構成・塗り込み)	30	筆記テスト及びアンケート
成績評価方法		・講義ごとの課題作品60% ・感想文・レポート・テスト(授業で実施) 20% ・材料・道具・授業準備・積極的参加 20%			
テキストおよび参考図書		・テキスト「図画工作」教科書 その他適宜資料を配布する 参考文献：・H・ガードナー「こどもの描画・なぐり描きから芸術まで」誠信書房 1996 4,536円 ・事例で学ぶ保育内容領域「表現」萌文書店 2007 2,160円 ・鳥居昭美「こどもの絵をダメにしていますか？」大月書店 2004 1,620円 ・宮武辰夫(著)創造美術協会静岡支部(編集)「幼児の絵は生活している 改訂新版」文化書房博文社2000 2,700円 ・平成29年告示「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府/文部科学省/厚生労働省/チャイルド本社 2017 540円			

科 目	幼 児 体 育		開講時期：2年・通年		履修区分：卒業必修
			授業形態：演習		
担 当 者	准教授 堀 田 亮		単 位 数：2単位		授業回数：30回
			オフィスアワー：授業終了後		
到達目標	・「今の時代を生きる子供たち」に対する運動あそびのもつ教育的意義について説明ができる。 ・各種の運動あそびを素材とした短期の指導計画を作成することができる。 ・運動あそびの「ねらい」を実現するために必要な効果的な指導技術を習得する。				
授業の概要	グループワークを中心とした指導計画の作成 - 模擬保育・観察・レポート作成 - 反省会 - 再計画のサイクルを通して運動あそびに関する実践的指導力の向上を図る。また、運動指導の系統性に関する理論学習や保育実践記録の分析によって就学前体育の実践課題についても検討する。				
事前学習及び事後学習	・教育・保育実習で遊んでいる子供たちに積極的に関わったり、観察することによって運動、言語、ルール認識の発達段階について理解を深めること。 ・計画(保育者)、幼児、観察のそれぞれのグループの視点で、模擬保育後にレポートを作成すること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授 業 計 画					
1	前期オリエンテーション	11	模擬保育③(マットあそび)	21	模擬保育⑥(表現あそび)
2	現代社会における運動あそびと健康の意義	12	反省会③(幼児期における「感覚づくり」)	22	反省会⑥(リズム運動学習の内容と方法)
3	運動あそびの指導計画の作成の方法	13	保育実践記録の検討①(保育者の教材解釈)	23	模擬保育⑦(鬼あそび)
4	幼児体操の作成の方法	14	教育実習における体育実践の振り返り	24	反省会⑦(鬼あそびの発展系列)
5	グループワーク①(図書館での情報収集)	15	乳児期の運動あそび	25	保育実践記録の検討②(幼児期の発達課題)
6	グループワーク②(インターネットによる情報収集)	16	後期オリエンテーション	26	保育実践記録の検討③(現代の生活課題)
7	模擬保育①(ボールあそび)	17	模擬保育④(器械遊具あそび)	27	幼児期のあそびのルール認識について
8	反省会①(素材と教材の区別)	18	反省会④(運動指導の系統性)	28	運動あそびでの話し合いの指導について
9	模擬保育②(新聞紙あそび)	19	模擬保育⑤(なわあそび)	29	運動あそびの指導計画レポートの作成について
10	反省会②(身近な物を利用したあそび)	20	反省会⑤(二次元可逆操作の習得)	30	幼児期における体育実践と健康の課題
評価・単位認定条件		毎授業後の感想文(20%)、授業中に提示する課題レポート(40%)、定期試験(40%)			
テキストおよび参考図書		学校体育研究同志会編・鐘ヶ江他著、「幼児期運動遊びの進め方」、創文企画、2009、1620円 ・内閣府・文部省・厚生省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針」、チャイルド社、2014年、540円			

科 目	言 語 表 現	開講時期：1年・後期	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 皆 川 晶	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	①保育における言語表現について、基礎的知識・技術を習得する。 ②言語表現活動が子どもの人間形成に果たす意義を理解する。 ③絵本についての視野を広げ、表現力豊かな実演を行うことができる。		
授業の概要	絵本に多く接し、絵本ノートを作成することにより、保育者として物語を吟味し分析する力を養う。よみきかせや言葉遊びの実演を体験することにより、表現技術の実践力を養う。		
事前学習及び事後学習	日頃から幅広い視点で絵本や物語に親しみ、言語表現の豊かさに触れること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	よみきかせの実践
1	子どもの言葉と表現力	9	よみきかせの実践と評価
2	子ども・保育者の言葉（グループワーク）	10	絵本の紹介ポスターを作る
3	保護者への言葉（グループワーク）	11	「それから昔話」を作る
4	絵本の魅力	12	言葉遊び（すごろく）① 構想を練る
5	絵本と子どもの育ち	13	言葉遊び（すごろく）② すごろくを作る
6	絵本を生かした保育	14	言葉遊び（すごろく）③ 仕上げる
7	よみきかせの魅力	15	言葉と表現力についての総括
成績評価方法		作品：40%、レポート：30%、成果発表：30%	
テキストおよび参考図書		テキストは使用せず、毎回資料を配付する。参考図書は授業中に紹介する。	

科 目	児 童 文 化	開講時期：2年・後期	履修区分：保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 皆 川 晶	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	①子どもの発達と遊びについて、知識と技術を学ぶ。 ②子どもが児童文化に親しむ保育環境を知る。 ③子どもが遊びや表現活動を通して児童文化に親しむ環境作りや教材作りを習得する。		
授業の概要	児童文化に親しみ、子どもの成長と文化との関わりについて学ぶ。保育者としての役割を理解し、児童文化の表現技術の実践力を養う。		
事前学習及び事後学習	日頃から児童文化に親しみ、遊びの感性を養うこと。日本の年中行事を通して、家族や社会とのつながりに ついて理解を深めること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	紙芝居・ペープサートの制作（構想）
1	児童文化とは	9	紙芝居・ペープサートの制作（教材作り）
2	子どもと遊び	10	紙芝居・ペープサートの制作（仕上げ）
3	子どもと玩具	11	紙芝居・ペープサートの実演
4	ことば遊び	12	絵本作り（構想を練る）
5	子どもと年中行事	13	絵本作り（下書き）
6	児童文化施設と子どもの遊び	14	絵本作り（仕上げ）
7	紙芝居・ペープサートの魅力	15	自作絵本の発表・児童文化についての総括
成績評価方法		作品：60%、レポート：20%、成果発表：20%	
テキストおよび参考図書		テキストは使用せず、毎回資料を配付する。参考図書は授業中に紹介する。	

科 目	保育科基礎演習		開講時期：1年・前期	履修区分：保育科指定
			授業形態：演習	
担 当 者	准教授 垂見直樹 准教授 高木義栄	単 位 数：2単位	授業回数：15回	
		オフィスアワー：月曜日5限目（垂見） 火曜日5限目（高木）		
到達目標	①高等教育における学修とは何かを理解し、今後の学修に必要な基礎的知識・スキルを身につける意欲をもつことができる。 ②中等教育段階における学習内容を復習するとともに、自身の課題を明確化し、補うことができる。 ③レポート作成・プレゼンテーションなどのスチューデントスキルの必要性を理解し、実践できる。			
授業の概要	保育科指定科目である。高等教育では、これまでの学習からの質的転換が必要となる。そのような意識をもち、中等教育までの学習内容を復習し、今後の学修に必要なスチューデントスキルを身につけることで、短大での学修への滑らかな接続を図る。文系的・理系的領域の双方から基礎的な学力の向上・スチューデントスキルの向上をめざし、演習形式で実用可能な知識・技術を磨いていく。			
事前学習及び事後学習	各講義で指示された課題に積極的に取り組むこと。また、授業内容を踏まえ、積極的に他の教科目における学修へ応用しようとする意識をもつことが重要である。 （各回授業の予習・復習時間は60分）			
授業計画		8	文章の書き方④－レポート①；レポートの意味とルール	
1	大学はどういうところか	9	基礎教養④－割合の考え方・長さ・重さの測定と単位	
2	文章の書き方①－文章作成のルール	10	文章の書き方⑤－レポート②；情報収集・引用の方法	
3	基礎教養①－グラフの見方・示し方①	11	基礎教養⑤－日本の政治と行政；保育・教育との関連を中心に	
4	文章の書き方②－単文・短文で書く	12	文章の書き方⑥－レポート③；レポートの作成	
5	基礎教養②－グラフの見方・示し方②	13	プレゼンテーションの方法と実践①	
6	文章の書き方③－感想の書き方	14	プレゼンテーションの方法と実践②	
7	基礎教養③－グラフの見方・示し方③	15	まとめ	
成績評価方法		ポートフォリオ(授業中の提出物)：30%、授業への参加・発表：30%、学期末レポート：40%		
テキストおよび参考図書		・授業中に適宜資料を配布する。 ・参考図書は授業中に紹介する。		

科 目	保 育 者 論		開講時期：2年・後期	履修区分：保育士必修
			授業形態：講義	
担 当 者	准教授 垂見直樹	単 位 数：2単位	授業回数：15回	
		オフィスアワー：月曜日5限目		
到達目標	①保育者の役割と倫理について理解し、説明できる。 ②保育者の専門性について理解し、その獲得への見通しをもつことができる。 ③保育者の協働に関する基本を理解し、説明できる。			
授業の概要	『保育所保育指針』等に基づき、保育者という専門職として必要な知識・技術とは何か、保育者としての専門性とは何かについて理解し、専門性を自ら高めることのできる保育者を目指す。講義形式を基本とするが、グループワークなどを通して、自分の目指す保育者像についての思索を深める機会を設ける。			
事前学習及び事後学習	保育所保育指針等のうち、事前に指定した箇所を目を通しておくこと。講義終了後は、授業中に配布した資料の復習をしておくこと。 （各回授業の予習・復習時間は60分）			
授業計画		8	保育者の協働②－園外部の専門機関との連携・協働	
1	保育者論で何を学ぶか－オリエンテーション－	9	保育者の協働③－保護者との連携・保護者支援	
2	保育者の制度的位置づけ－資格・要件・責務－	10	保育者の協働④－地域の中の保育者の役割	
3	乳幼児期の教育に関する専門性①－役割と倫理・基本原理	11	保育者の成長とキャリア形成①－現役保育者の事例から－	
4	乳幼児期の教育に関する専門性②－資質・能力	12	保育者の成長とキャリア形成②－保育者を取り巻く困難とそれへの対処	
5	乳幼児期の教育に関する専門性③－知識・技術・判断	13	どんな保育者を目指すか（グループワーク①）	
6	乳幼児期の教育に関する専門性④－省察と自己評価	14	どんな保育者を目指すか（グループワーク②）	
7	保育者の協働①－園内部における協働と同僚性	15	保育者論における要点の整理と確認	
成績評価方法		レポート課題等提出物：20%、学期末試験：80%		
テキストおよび参考図書		・内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針<原本>』、チャイルド本社、2014年、540円		

科 目	保 育 実 践 演 習	開講時期：2年・通年	履修区分：保育士必修
		授業形態：演習	
担 当 者	保育科専任教員	単 位 数：2単位	授業回数：30回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	保育に関する科目の横断的な学習能力を習得し、保育に関する現代的な課題についての現状分析、考察、検討を行う。また、問題解決ための対応、判断方法等について学びを深める。最終的に、必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を習得したことを確認する。		
授業の概要	保育にかかわる諸課題【内容】から自分でテーマを設定し、考察、検討を行うとともに、そのテーマについて、子どもや保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を習得する。		
事前学習及び事後学習	自分のテーマに関する情報収集（文献、インターネットなど）を行い、問題の所在や現状を把握し、焦点化する。自らの問題解決手法（アンケート、インタビュー、参与観察など）を用いて研究成果をまとめ、ディスカッションや研究発表の資料をまとめる。（担当教員の指示に従ってください） (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画 <前期>		8	テーマの設定に向けてⅡ（先行研究の検討）（グループワーク）
1	前期オリエンテーション（合同）	9	テーマの設定に向けてⅢ（テーマの焦点化）（グループワーク）
2	課題群の説明と理解Ⅰ（合同）	10	ディスカッションの資料作成（グループワーク）
3	課題群の説明と理解Ⅱ（合同）	11	ディスカッションの資料作成（グループワーク）
4	課題群の説明と理解Ⅲ（合同）	12	ディスカッション実施（研究計画の個人発表）（合同）
5	研究手法に関する理解Ⅰ（情報収集とは何か）（合同）Ⅰ	13	ディスカッション実施（研究計画の個人発表）（合同）
6	研究手法に関する理解Ⅱ（アンケート、インタビュー、参与観察）（合同）	14	ディスカッションの反省会（グループワーク）
7	テーマの設定に向けてⅠ（問題関心の整理）（グループワーク）	15	前期レポートの提出と検討
授 業 計 画 <後期>		8	研究調査の実施（グループワーク）
1	後期オリエンテーション（合同）	9	研究発表の資料作成（グループワーク）
2	研究調査の実施（グループワーク）	10	研究発表の資料作成（グループワーク）
3	研究調査の実施（グループワーク）	11	研究発表の資料作成（グループワーク）
4	研究調査の実施（グループワーク）	12	研究発表の資料作成（グループワーク）
5	研究調査の実施（グループワーク）	13	研究発表会Ⅰ（合同）
6	研究調査の実施（グループワーク）	14	研究発表会Ⅱ（合同）
7	研究調査の実施（グループワーク）	15	最終レポートの提出と検討
成績評価方法	ディスカッションや研究発表（70％）、レポート（30％）		
テキストおよび参考図書	内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2014、540円。また、適宜、参考文献を提示し、資料を配付する。		
【内容】			
担当教員名	金 俊 華	テーマ：幼児を対象にした「多文化共生保育」について	
日本の保育現場における「異文化間理解」の現状と諸問題について考察する。具体的には、子どもが異文化に親しみを覚えるための遊びや指導法、外国の幼児教育制度などについて文献研究やフィールドワークを行う。			
担当教員名	大 津 泰 子	テーマ：日常生活における福祉に関する研究	
子どもや家庭を取り巻く環境、少子化問題、子育て支援、障がいを持つ人々への支援など、日常生活における「福祉」に関する課題を見つけていく。さらに、それらの課題に対して、保育者としてどのような支援ができるか考えていく。			
担当教員名	三 木 一 司	テーマ：幼児を対象とした読み聞かせ教材の研究	
保育を展開するために使用する紙芝居や絵本などの教材に関する理解を深め、子どもたちに伝えるための技術を検討し、考察することを目的とする。			
担当教員名	久 世 安 俊	テーマ：子どもと音楽の関わり、それに伴う作品の魅力やメソッドへのアプローチ	
童謡、唱歌、今昔の子どもの歌、園生活での音楽など、歌い継がれる理由とは何なのか。詩の持つ本当の意味や作られた背景に迫り、作品の魅力に迫る。また、幼児期における音楽指導法（歌唱、合奏、リトミック）について考えていく。			

担当教員名 竹 永 亜 矢	テーマ：塑造(そぞう)表現と創作 –立体造形から表現活動への展開と実践–
<p>触覚の芸術と言われる塑造（そぞう）には、人間の造形本能を活性化させる魅力があります。このテーマでは、可塑性の素材（粘土・紙等）を使った塑造（そぞう）による立体造形作品制作体験から、その魅力と創作への活用法、子供たちの心や体の発達、表現活動に与える効果について実体験を通して学び、教育現場において、身近な素材を使ってより豊かな造形表現活動を援助出来る能力を習得します。</p>	
担当教員名 垂 見 直 樹	テーマ：乳幼児期の教育をめぐる現代的課題
<p>子ども子育て支援制度の課題、就学前段階と小学校との接続、望ましい保育者のあり方など、乳幼児期の教育をめぐる現代的な課題について研究する。文献研究やフィールドワークを通して、保育者としての実践力につながる研究をすることをねらいとする。</p>	
担当教員名 平 松 愛 子	テーマ：「人と音楽」に関する研究
<p>人は、生まれた時からさまざまな「音楽」に触れて成長していく。人は音楽から何を求めるのだろうか。子どもの音楽活動、子どもの音楽教育法、音楽あそび、母と子の音楽、福祉の音楽、子どもの歌ピアノ伴奏法など、「音楽」の分野が「人」に与える影響と、その可能性について考えていく。</p>	
担当教員名 皆 川 晶	テーマ：子どもと言葉・文学について
<p>言葉の基礎は乳幼児期に育まれる。人と言葉の関わり、子どもと保育者の言葉、言葉を育てる手立てについて考える。また、児童文学や絵本、昔話に親しみ、作品分析や子どもへの影響について考える。</p>	
担当教員名 高 木 義 栄	テーマ：幼児を対象とした環境教育について
<p>学生自らが、子どもを取り巻く環境（地域の自然・社会環境）の理解に必要なフィールドワークを行う。そこで得られた知見を保育現場で実践的指導法として活用できることをねらいとする。</p>	
担当教員名 木 下 寛 子	テーマ：子どもと生活世界–子どもと生きる日々の探求
<p>子ども達の生活世界の一端を明らかにし、あらためてその中に保育の場を位置付けて、広い視野から子ども達と豊かな日々を展開させるための素地を形成する研究を行います。保育士等が子どもと出会う場は、とても大事な場ですが、一方で子ども達ひとりひとりの生活から見ると、まだほんの一部分にすぎません。観察法（参与観察・事象・時間見本法など）、および文献講読を中心として、具体的な現実即して子どもが仲間や大人と一緒に生きていく場所（生活世界）の広がりや限界を、具体的な事象から理解するための方法を探求します。</p>	
担当教員名 堀 田 亮	テーマ：子どもの健康に関する研究
<p>運動や食生活、休養など子どもの健康に関わるさまざまな課題について研究する。研究を通して得られた知見を実際の保育の現場で活かすことをねらいとする。</p>	
担当教員名 渡 邊 暁	テーマ：福祉分野における養護・療育・ケア活動と相談援助(ソーシャルワーク)
<p>保育士に必要な養護と療育、ソーシャルワークの視点から、各々が設定した福祉分野のテーマについて分析および検討する。</p>	
担当教員名 橋 本 翼	テーマ：現代の子どもたちの「こころ」についての理解と対応
<p>子どもに関わる現代的問題（不登園、いじめ、虐待、発達障がい、スマホ依存症など）について心理学的な理解を深め、問題解決のために保育者に求められる専門性とは何かを考えていく。</p>	

科 目	教 職 概 論		開講時期：1年・前期		履修区分：幼免必修
			授業形態：講義		
担 当 者	教 授 三 木 一 司		単 位 数：2単位		授業回数：15回
			オフィスアワー：木曜日5限目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職務を遂行する資質や力量について考える。 ・教職への関心を高め、職業に対する意欲を高める。 ・教師の職務や意義について理解する。 				
授業の概要	教職の意義や役割などの基本的な理解を深めること、そして、今後求められ期待されるであろう教師の能力について考察する。				
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、先生、教育・保育をめぐる問題に関心をもつ。 ・配付資料やノートを見直し要点を押さえ、理解する。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>				
授業計画			8	学びについて考えるー授業をつくるー	
1	イントロダクション：講義の進め方と講義概要		9	先生と子どもの関係を考えるー子ども集団と学級ー	
2	学校教育を振り返るー教育の目的ー		10	子どもに対する懲戒の実態	
3	教師とは何か考える		11	子どもへの懲戒を考える	
4	教師の一日の仕事		12	学校という制度	
5	教師の職務と専門性		13	教師の身分と服務	
6	実践を通じた資質と力量の形成		14	人間としての教師を考える	
7	教師の形成すべき資質と力量		15	これからの教師とは	
成績評価方法			定期試験70% 課題30%		
テキストおよび参考図書			適宜資料プリントを配付し、必要に応じて参考文献を講義中に紹介する。		
			『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2014、540円		

科 目	教 育 原 理		開講時期：1年・後期		履修区分：卒業必修
			授業形態：講義		
担 当 者	教 授 金 俊 華		単 位 数：2単位		授業回数：15回
			オフィスアワー：木曜日5限目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が教育の意義および目的など、教育の本質を理解するために必要な能力と知識を習得する。 ・学生が現代社会における教育の諸課題について考察し、論じる能力を習得する。 				
授業の概要	・教育の意義、目的、制度、思想、歴史について解説する。また、現代社会における教育の諸課題について実践的課題を提示し、幼稚園教諭として求められる教育観について学習する。				
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育基本法」、「幼稚園教育要領」を事前に熟読する。 ・教育に関連する新聞記事等を収集する。 ・授業中、指示された課題をまとめる。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>				
授業計画			8	教育実践②ー教育計画と評価	
1	教育とは何か①ー教育の意義		9	現代社会と子ども①ー遊びと生活習慣の変容	
2	教育とは何か②ー教育の目的		10	現代社会と子ども②ー「食育」と「命の教育」	
3	教育思想と歴史①ー諸外国の教育思想の変遷		11	人権教育について考える	
4	教育思想と歴史②ー日本の教育思想の変遷		12	現代社会と教育の課題①教育改革の諸問題	
5	教育制度①ー教育法規教育基本法と学校教育法		13	現代社会と教育の課題②保護者・地域社会との連携	
6	教育制度②ー幼稚園教育要領とは何か		14	生涯学習社会と教育	
7	教育実践①ー幼稚園教育要領について考える		15	教育制度の改革ー教育の社会的作用	
成績評価方法			試験50%、レポート30%、授業への積極的参加（発表・質問など）20%		
テキストおよび参考図書			・内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2014年、540円。また、適宜、参考文献を提示し、資料を配付する。		

科 目	教 育 心 理 学		開講時期：1年・通年	履修区分：卒業必修	
			授業形態：演習		
担 当 者	講 師 橋 本 翼		単 位 数：2単位	授業回数：30回	
			オフィスアワー：木曜日5限目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に役立つ教育心理学の基本的知識を理解し説明することができる。 ・子どもの育ちや学習の過程について心理学的観点から理解する。 				
授業の概要	子どもの発達に関する心理学研究に関して学び、子どもがどのように学習していくかを解説していく。後半は臨床心理学の理論や技法も取り上げ、臨床心理学的な視点も育てていく。テキストに沿って講義とグループ討論を行い、適宜資料を配付する。				
事前学習及び事後学習	あらかじめテキストに目を通しておくこと。実際に保育の中でどのように心理学の知識を活用できるのか考え、レポート作成やグループ発表を行うこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)				
授 業 計 画					
1	教育心理学とは	11	就学に向けて	21	臨床心理学の理論①精神分析
2	子どもの情緒面の発達	12	家庭への支援	22	臨床心理学の理論②来談者中心療法
3	子どもの認知面の発達	13	子どもをめぐる教育的問題①不登園	23	臨床心理学の理論③認知行動療法
4	学習行動の基礎	14	子どもをめぐる教育的問題②虐待	24	心理検査による子どもの理解
5	やる気について	15	教育の中で育てる子どもの心	25	子どもを理解するための演習
6	知的能力の発達	16	集団の中での子どもの育ち	26	保育者とは他職種との連携
7	パーソナリティの発達	17	子どもと遊び①0～3歳まで	27	保護者への支援
8	教育・保育における評価	18	子どもと遊び②4～6歳まで	28	保育者として自己と向き合う
9	発達障がいの子どもの保育	19	子どもの発達の問題	29	事例から学ぶ
10	保育に生かす教育心理学	20	子どもの心理的問題	30	教育心理学を保育実践に生かす
成績評価方法		授業への積極的参加（各授業の感想含む）（30%）＋試験結果（70%）			
テキストおよび参考図書		テキスト：伊藤健次編『保育に生かす教育心理学』、（株）みらい、2008、2,000円 その他適宜資料を配布する。			

科 目	教 育 相 談		開講時期：2年・後期	履修区分：幼児必修
			授業形態：講義	
担 当 者	講 師 橋 本 翼		単 位 数：2単位	授業回数：15回
			オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割としての保護者支援の方法と要点について説明できる。 ・教育相談に不可欠なカウンセリングの基礎的な技法を習得する。 			
授業の概要	保育における教育相談に関する基本的知識を学ぶ。その上で具体的なカウンセリングの技法を学び、特に子育て支援における保育者の役割に関して理解を深めていく。			
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援に関わる新聞記事や本などに目を通しておき、「自分ならどのように関わるか」という点を意識しておく。実習においても教育相談がどのように行われているかよく観察しておくこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)			
授 業 計 画			8	日常の保護者とのかかわり方
1	教育相談とは	9	養育困難を抱える保護者への支援	
2	子育て支援に生かすカウンセリング理論①来談者中心療法	10	虐待が疑われる家庭への支援	
3	子育て支援に生かすカウンセリング理論②精神分析	11	障がいのある子どもをもつ保護者への支援①障がいの理解	
4	子育て支援に生かすカウンセリング理論③認知行動療法	12	障がいのある子どもをもつ保護者への支援②支援の実際	
5	子育て支援に生かすカウンセリングの技法①傾聴訓練	13	精神疾患の疑いのある保護者への支援	
6	子育て支援に生かすカウンセリングの技法②応答訓練	14	養育困難を抱える保護者への支援	
7	子育て支援に生かすカウンセリングの技法③質問訓練	15	教育相談を保育実践に生かす	
成績評価方法		授業への積極的な参加（授業の感想含む）40%＋課題レポート（60%）		
テキストおよび参考図書		テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。（参考図書：石川洋子編集、『子育て支援カウンセリングー幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポートー』、図書文化、2008、1,600円）		

科 目	教 職 実 践 演 習	開講時期：2年・後期	履修区分：幼免必修
		授業形態：演習	
担 当 者	教授 金 俊 華 教授 三 木 一 司	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目（金・三木）	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自らの学びを振り返り幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を確認する。 ・学生が幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。 ・学生が幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。 		
授業の概要	この授業では、2年間の学習と実習の成果をふり振り返りながら、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論・ロールプレイ、模擬保育などを組み合わせ行う。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学びを振り返り幼稚園教諭として必要な知識・技能の中で、自己に欠けている課題を把握する。 ・教育職に必要なコミュニケーション能力の向上に積極的に取り組む。 ・授業中、要求される課題をまとめる。 <p style="text-align: right;">（各回授業の予習・復習時間は60分）</p>		
授業計画		8	ロールプレイ（保護者への対応）③
1	オリエンテーション	9	グループ討議・反省会①
2	教育職に就く心構えと準備（教育的愛情）	10	グループ討議・反省会②
3	幼稚園教諭としての使命と役割	11	安全管理・危機管理について
4	教育職の意義と職務内容	12	教育内容に関する課題検討
5	教育職に必要なコミュニケーション能力	13	教育内容に関する課題発表
6	ロールプレイ（保護者への対応）①	14	教育職の専門性向上の関する課題検討
7	ロールプレイ（保護者への対応）②	15	教育職の専門性向上の関する課題発表
成績評価方法		試験40%、発表40%、レポート20%	
テキストおよび参考図書		・内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2014年、540円。また、適宜、参考文献を提示し、資料を配付する。	

科 目	教 育 実 習	開講時期：1年・後期・2年・前期	履修区分：幼免必修
		授業形態：実習	
担 当 者	准教授 垂 見 直 樹	単 位 数：4単位	授業回数： 附属幼稚園実習30回 外部幼稚園実習2週間
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・幼稚園教諭の職務および役割を体験を通して理解する。 ・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。 		
授業の概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために附属幼稚園実習では、観察・参加実習を、さらに、2年次6月の外部幼稚園実習では、指導（部分または全日）実習を主とする実習を行うこととする。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配属クラスの年齢に応じた手あそび、歌あそび、読み聞かせの練習をすること。 ・配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること。 ・実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成すること。 		
授業計画			
<p><附属幼稚園実習> 1年後期から2年前期の期間、週1回の頻度で附属幼稚園での終日実習を行う。ここでは、園児の送り迎え、通常の教育活動、保育室の壁面構成などの環境整備など、幼稚園の1日の流れが体験できるようになっている。また、様々な年間行事（運動会、生活発表会など）への参加を通して通常の教育活動以外の多様な体験を積むことができる。さらに、「子育て支援」という現代的課題との関連についても、「預かり保育」「3歳未満児入園」「地域の未就園児への施設開放」などの地域の教育センターとしての事業に対する教師の役割についても理解を深めていく。</p> <p>観察・参加実習を中心とする附属幼稚園実習では、以下のような観察視点からどのような活動がどのような方法で行われているかを把握することに努める。①幼稚園の1日の流れと活動内容の概要を理解すること、②あそび・生活場面での子どもの発達段階を理解すること、③幼稚園教諭の職務と役割を理解すること。</p>			
<p><外部幼稚園時実習> 専門教育科目で獲得した知識、技能、さらに、附属幼稚園での経験を活用しながら、幼児教育に関する実践的指導力を獲得することがねらいとなる。2年前期6月中旬に実施される外部幼稚園実習では、以下のような項目が学習内容となる。①部分実習と全日実習の担当、②幼稚園教諭としての教育技術の習熟および態度の育成、③家庭との連携の内容と方法の理解。</p>			
成績評価方法		観察記録の記述内容（50%）、指導計画の記述内容（30%）、実習園による評価（20%）	
テキスト・機器・参考文献		①内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』、チャイルド社、2014、540円	

科 目	教育実習事前事後指導	開講時期：1年後期～2年前期	履修区分：幼免必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 垂 見 直 樹	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。 ・観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。 ・「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。 		
授業の概要	幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。①幼児期の発達段階、②幼稚園の機能と役割、③幼稚園教諭の職務と役割、④観察記録の作成方法、⑤指導計画の立案方法。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援制度など、幼児教育や子育てに関わった現代的な課題を新聞などの情報によって確認し、把握しておくこと。 ・実習で使用する手あそび、歌あそび、ゲームなどのレパートリーを増やしておくこと。 ・子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めるために、ボランティア活動に積極的に参加すること。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	附属幼稚園における観察実習
1	本学の教員養成の目標と教育課程	9	指導計画の作成の方法①(「朝の会」、「昼食指導」の指導計画)
2	教育実習の意義・目的	10	指導計画の作成の方法②(「中心となる活動」の指導計画)
3	幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教育を取り巻く状況	11	現職教諭卒業生による講演会
4	幼児期の発達課題と生活課題	12	教育実習直前ガイダンス
5	幼稚園教諭の職務と役割	13	教育実習修了レポートの作成
6	実習園選定に向けた情報収集の方法	14	地区担当教員による個別指導
7	観察・参加実習における記録作成の意義と方法	15	卒業・就職に向けた課題の探究
成績評価方法		①毎授業後の感想文(20%)、②授業中に提示する課題(指導計画の作成など)レポート(50%)、③定期試験(30%)	
テキスト・機器・参考文献		①内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』、チャイルド社、2014、540円	

科 目	健 康 (指導法)	開講時期：1年・前期	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 堀 田 亮	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：授業終了後	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領および保育所保育指針に示される「ねらい」「内容」などの「健康」領域の構造を理解する。 ・「健康」に関する保育内容(①就学前段階の運動遊びの指導法、②基本的生活習慣の形成およびその援助、③健康、安全に関する保育活動)および指導法を実践的に探究していくために必要な基礎的な知識、技能を獲得する。 		
授業の概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動あそび」と「基本的生活習慣」に関する保育者の指導・援助のあり方をテーマとして検討していく。心理学、教育学、保育学、医学の諸領域による知見を理解することにくわえ、新聞やインターネットなどの情報から現代的な課題を探究する。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容に該当する「教育要領」「保育指針・解説書」の部分をあらかじめ読んでおくこと ・子ども、幼児、健康、子育て、からだ、スポーツ、運動などをキーワードとした新聞やインターネットの情報について日常から興味・関心を持つようにすること (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	運動あそびの指導法
1	健康の概念	9	運動あそびの指導計画
2	教育要領、保育指針における「健康」領域	10	事故防止と安全対策
3	乳児の運動発達①反射的運動の段階	11	食事に関する保育内容と指導法
4	乳児の運動発達②初歩的運動の段階	12	排泄に関する保育内容と指導法
5	乳児の運動発達③乳児期の運動あそびの指導・援助	13	生活リズム(睡眠・休養)に関する保育内容と指導法
6	幼児の運動発達①基本的運動の段階	14	健康だよりの作成に向けた情報収集
7	幼児の運動発達②運動の多様化と洗練化	15	健康だよりの作成
成績評価方法		毎授業後の感想文(20%)、授業中に提示する課題レポート(40%)、定期試験(40%)	
テキスト・機器・参考文献		・内閣府・文部省・厚生省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針」、チャイルド社、2014年、540円 ・厚生労働省「保育所保育指針 解説書」、フレーベル館、2008年、210円	

科 目	人 間 関 係 (指 導 法)	開講時期：2年・前期	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 金 俊 華	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が領域「人間関係」に関する保育内容および指導に関する知識・技術を習得する。 ・学生が子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める。 		
授業の概要	<p>子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学習する。また、子どもが、単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。</p>		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」を熟読すること。 ・授業中、指示された課題をまとめて、提出すること。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授業計画		8	集団における「人間関係」の形成について
1	領域「人間関係」の観点	9	絵本・紙芝居などを用いた教材研究について
2	領域「人間関係」のねらいと内容①幼稚園教育要領	10	指導案の作成(模擬保育を想定して)について
3	領域「人間関係」のねらいと内容②保育所保育指針	11	子どもの人間関係の諸相①協力・競争・排除
4	領域「人間関係」の基礎的知識①愛着	12	子どもの人間関係の諸相②思いやりと道徳性の芽生え
5	領域「人間関係」の基礎的知識②自我の形成と他者理解	13	子どもの人間関係の諸相③コミュニケーション
6	「アトム保育所」の事例紹介	14	家庭・地域社会における子どもの「人間関係」
7	保育者の役割と指導について	15	まとめ：「人とかかわる力を養う」ための総合的指導
成績評価方法		試験70%、レポート30%	
テキストおよび参考図書		内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』、チャイルド本社、2014、540円 また、適宜、参考文献を提示し、資料を配付する。	

科 目	環 境 (指 導 法)	開講時期：1年・前期	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 高 木 義 栄	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：火曜日5限目	
到達目標	<p>子どもたちに影響を与える環境についての現状・問題について説明することができる。現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、すなわち自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導することができる。様々な観察を通して、観察力・集中力を身につけることができる。</p>		
授業の概要	<p>保育科の卒業・幼免・保資必修科目です。領域「環境」について解説し、子どもたちを取り巻く環境の現状や問題について考察します。また、具体的生活体験を重視した保育指導力育成のための実践的授業や環境教育を視野に入れた授業を実施します。動物園実習を通して、命の大切さを学ぶとともに観察力を向上させることで子ども一人一人の発達の特性に応じた総合的な指導力を養います。</p>		
事前学習及び事後学習	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の部分を読み込む。図書館やインターネットで関連文献に目を通す。普段の生活の中で自然に注意を向け、観察する習慣をつける。(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授業計画		8	動物園実習Ⅱ(福岡市動物園、グループワーク、様々な動物の観察)
1	幼児を取り巻く環境(園・家庭)とその現状、問題	9	動物園実習事後指導、グループ発表
2	幼児を取り巻く環境(自然)、幼児と自然とのかかわり	10	ゴミを利用した工作(動物園実習のふりかえり)
3	身近な自然(近くの公園への散歩)	11	科学あそびⅠ(風船を使ったあそび、グループワーク)
4	生き物アンケート	12	科学あそびⅡ(シャボン玉、グループワーク)
5	ひまわり栽培(種まき、ひまわり日記)	13	科学あそびⅢ(ドロダンゴ)
6	動物園実習事前指導	14	科学あそびⅣ(ミニ凧づくり)
7	動物園実習Ⅰ(福岡市動物園、グループワーク、サル山での観察)	15	まとめ(現在の子どもたちに自然体験をさせるには)
成績評価方法		まとめレポート：30%、ひまわり日記：30%、その他の課題提出物：20%、 受講態度・講義への積極的参加：20%	
テキストおよび参考図書		幼稚園教育要領・保育所保育指針(原本)。適時プリント配布。 参考図書：田尻由美子・無藤隆(編)、『保育内容 子どもと環境 ー基本と実践事例ー』同文書院、2006年、2,376円	

科 目	言 葉 (指導法)	開講時期：2年・前期	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 皆 川 晶	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	①子どもの人間形成において言葉を習得することの重要性を理解する。 ②子どもが言葉を身につけていく環境と、それに関わる保育者の役割を習得する。 ③『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「言葉」のねらいと内容を理解し、言葉を育てる指導・援助の方法を身につける。		
授業の概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における保育内容・言葉のねらいと内容を理解する。言葉の獲得における発達について学習し、子どもの言葉を育む保育者としての力を養う。		
事前学習及び事後学習	授業内容について復習すること。『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』については、事前に目を通しておくこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授業計画		8	領域「言葉」のねらいと内容②(ねらいと内容との関連)
1	言葉とは何か	9	子どもの言葉をひきだす保育者の関わり
2	人と言葉の関わりを考える	10	保育者の言葉を高める
3	乳幼児期の言葉の発達①(乳児期の言葉の獲得)	11	子どもの想像力を育てるーことばあそび
4	乳幼児期の言葉の発達②(幼児期の言葉の獲得)	12	言葉を育てる遊びーかるたの特性
5	配慮を要する子どもの言葉	13	言葉を育てる遊びーかるたの制作
6	領域「言葉」の目標、他領域との関係	14	言葉を育てる遊びーかるたの実演
7	領域「言葉」のねらいと内容①(内容の理解)	15	言葉をめぐる課題と総括
成績評価方法		試験：60%、作品：20%、提出物：20%	
テキストおよび参考図書		①内閣府・文科省・厚労省、『幼保連携型認定こども園教育、保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』、チャイルド社、2014年、540円 ②厚生労働省編『保育所保育指針解説書』、フレーベル館、2014年、205円 授業時にプリントを配付する。	

科 目	造 形 表 現 (指導法)	開講時期：1年・通年	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 竹 永 亜 矢 講 師 岡 野 千 晴	単 位 数：2単位	授業回数：30回
		オフィスアワー：水曜日5限目	
到達目標	・作品制作を通じて、創造性や表現力、作品鑑賞を楽しく、感性豊かに学び、幼児教育における造形表現の基礎知識を習得する。 ・保育者として子供を援助し、他の生活領域や表現分野とのかかわりに気を配りながら、造形活動を通して感動を伝えあう喜びを大切に出来る様、造形表現基礎から素材の応用、共同制作を体験し、実践課題として展開できる能力の習得を目指します。		
授業の概要	造形の基礎となる、平面(デッサン、色彩、デザイン、版画)立体(粘土)の作品制作、造形表現講義、作品鑑賞の課題を通し、材料に慣れ工夫する事、楽しく造形できる技法、シナリオや劇表現など、常に他分野と共存する幼児の生活を学び、幼児の造形活動への理解を深めます。 下記の進行計画の演習により、実技と理論、課題制作、応用として身近な素材を使った人形制作を行い、それらを使った人形劇表現に共同で取り組み、劇の創作を通してシナリオ構成から演技まで学びます。また、制作感想文、レポート、確認テストなどをおこなう事で教授します。		
事前学習及び事後学習	・演習授業の為、材料、道具は非常に重要です。自分が使用する材料、道具の準備、整理、管理を主体的に行いましょう。 ・授業で制作した作品は、実習や保育現場での参考になる為、作品を大切に保管し、制作方法、感想を記録して下さい。 ・課題ごとに配布する資料は、まとめのテスト、制作の参考になりますので、まとめて保管し活用しましょう。		
授業計画		(各回授業の予習・復習時間は60分)	
1	オリエンテーション(授業内容・道具について)	11	玩具と劇 ① 身近な素材で人形制作(基本形)
2	粘土で作ろう ① 掌(たなごころ)の造形	12	玩具と劇 ② 人形制作仕上げ(装飾)
3	粘土で作ろう ② 顔 (レリーフ)	13	玩具と劇 ③ 人形劇のシナリオを作る(表現)
4	粘土で作ろう ③ 手 (立体)	14	玩具と劇 ④ 演技を練習する(共同創作)
5	粘土で作ろう ④ 共同制作	15	玩具と劇 ⑤ 人形劇表現(発表)感想文まとめ
6	クロッキー ① 筆で描く	16	点で描こう ① 言葉のイメージ(点とは?)
7	クロッキー ② 鉛筆で描く	17	点で描こう ② 卵を描く(陰影・立体感・空間性)
8	紙版画 ① 図案 (動く形)	18	色彩を学ぶ ① 色相環A(色遊びで色作り・白)
9	紙版画 ② 原版作り	19	色彩を学ぶ ② 色相環B(色遊びで色作り・黒)
10	紙版画 ③ 刷り	20	色彩を学ぶ ③ 暖色・寒色・人の色
成績評価方法		講義ごとの課題作品60% 感想文・レポート・テスト(授業で実施) 20% 材料・道具・授業準備・積極的参加 20%	
テキストおよび参考図書		・テキスト 「図画工作」教科書 その他適宜資料を配布する	
参考文献：・富山典子「絵画遊び技法百科」ひかりのくに2001 3,024円 ・林建造「保育の中の造形表現」サクラクレパス出版 1992 3,456円 ・宮武辰夫(著)創造美術協会静岡県支部(編集)「幼児の絵は生活している 改訂新版」文化書房博文社2000 2,700円 ・ローダ ケロッグ(著)Rhoda Kellogg(原著)深田尚彦(翻訳)「児童画の発達過程ーなぐり描きからピクチャーヘー」描画心理学双書1998 ・平成29年告示「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府/文部科学省/厚生労働省チャイルド本社 2017 540円			

科 目	音 楽 表 現 (指 導 法)	開講時期：1年・前期	履修区分：卒業必修
		授業形態：演習	
担 当 者	准教授 平 松 愛 子	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	幼稚園教育・保育の領域「表現」に関する「ねらい」及び「内容」、全体構造を理解する。音楽表現の観点から幼児の発達や学びの過程を理解し、実践的な指導法を身につけるために必要な基礎的な知識、技能を習得する。		
授業の概要	「表現」領域の中核的な保育内容である「表現あそび」の中から、音楽表現に関する「あそび」について、保育者の指導・援助の在り方、その方法を検討する。		
事前学習及び事後学習	事前にテキストに目を通しておくこと。授業後に内容を復習し、課題作成や発表練習をおこなうこと。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	音楽表現あそびの教材・情報収集
1	オリエンテーション、教育要領・保育指針における領域「表現」	9	表現あそびの指導計画
2	幼児と音楽の関わり、幼児への指導法、保育者の表現上の留意点	10	表現あそびの指導案作成
3	音楽表現あそび①わらべうたあそび	11	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り①1～3班
4	音楽表現あそび②手を使った歌あそび	12	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り②4～6班
5	音楽表現あそび③食べものが出てくる歌あそび	13	模擬保育発表及び指導・援助についての振り返り③7～9班
6	音楽表現あそび④生きものが出てくる歌あそび	14	小学校音楽の授業につながる音楽表現あそび ミニテスト①
7	音楽表現あそび⑤身体を使った歌あそび	15	様々な素材を使った音楽表現あそび ミニテスト②
成績評価方法		模擬授業の発表内容(20%)、指導計画の記述内容(20%)、その他課題の記述内容(20%) ミニテスト(40%)	
テキストおよび参考図書		木村鈴代他、『新たなの子どものうたあそびー現場で活かせる保育実践ー』、同文書院、2017年、2,376円 『幼稚園教育要領・保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社、540円	

科 目	劇 あ そ び (指 導 法)	開講時期：2年・後期	履修区分：幼免必修・ 保育士選択
		授業形態：演習	
担 当 者	教 授 久 世 安 俊	単 位 数：1単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：金曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 感性を磨き、豊かな創造力と表現力を養い、子どもの自己表現をしっかりと受け止め、共に感動し遊ぶことができる。 劇づくりのプロセスを理解し、表現活動に関する指導計画を作成することができる。 プロセスごとの表現技能や指導技術を習得する。 		
授業の概要	音楽、絵画、運動、文学など総合表現である劇の作成に取り組み、総合発表会での発表を行う。配役、演奏、演出、道具、衣裳など各セクションすべてを学生たち自身で想像し創造していく。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 配役については、キャラクター、表現方法の追及を欠かさない。 練習での「試し」とその「直し」のルーティーンを欠かさない。 セクションについては進行計画をしっかりと把握し、グループへの報告・連絡、相談を密にとる。 (各回授業の予習・復習時間は60分)		
授 業 計 画		8	台本読み③(暗唱)
1	オリエンテーション リーダー決め	9	荒立ち(部分練習)
2	ディスカッション①(配役・係担当決め)	10	荒立ち(全体)
3	ディスカッション②(各担当ごと・練習計画作成)	11	立ち稽古(部分練習) ホール打合せ
4	音楽練習(音取り) 演出プラン検討	12	立ち稽古(全体) 道具・衣裳完成
5	音楽練習(個人・合わせ) 舞台プラン検討(演出・道具・照明)	13	通し稽古 パンフレット完成
6	台本読み合わせ① 衣装プラン	14	通し稽古(直し)
7	台本読み合わせ② パンフレットプラン	15	総合稽古
成績評価方法		総合発表会評価：60% 積極的参加(練習意欲・係担当)：40%	
テキストおよび参考図書		演目関連資料を適宜配布する。	

科 目	教育課程総論	開講時期：2年・前期	履修区分：幼児・ 保育士必修
		授業形態：講義	
担 当 者	教 授 三 木 一 司	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：木曜日5限目	
到達目標	この講義の履修を通して、①教育・保育課程及び指導計画の編成・作成の基本的な考え方を説明でき、②長期・短期の指導計画の作成方法を把握できるようになることを目標とする。		
授業の概要	教育・保育課程とは、設定された目標や目的を有効に達成するために、その内容を子どもの発達に応じて編成・計画するものである。本講義では、教育・保育課程及び指導計画の基礎的な考え方や編成・作成の方法論について学習する。		
事前学習及び事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考えや課題をもって講義に臨む。 ・この科目に関する実習上の課題を整理しておく。 ・保育内容に関心を持つ。 ・講義で学習した内容のポイントを確認し、周辺知識と合わせて理解を深める。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	教育・保育課程の編成
1	イントロダクション：講義の進め方と講義概要	9	指導計画の作成と展開
2	教育・保育課程の意義と基準	10	短期の指導計画作成上の留意点
3	幼稚園教育と教育課程	11	短期の指導計画の作成
4	保育所教育と保育課程	12	長期の指導計画作成上の留意点
5	教育・保育課程に共通する考え方	13	長期の指導計画の作成
6	子どもの姿のとらえかた	14	保育の見直し及び評価
7	保育リソースのファイリング	15	子ども理解と要録
成績評価方法		定期試験70% 課題30%	
テキストおよび参考図書		適宜資料プリントを配布し、必要に応じて参考文献を講義中に紹介する。 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2014、540円	

科 目	教育方法論	開講時期：2年・前期	履修区分：幼児必修
		授業形態：講義	
担 当 者	准教授 垂 見 直 樹	単 位 数：2単位	授業回数：15回
		オフィスアワー：月曜日5限目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児期の教育方法の基本原則を理解し、説明できる。 ②①を踏まえ、遊びを通じた具体的な実践を計画できる。 ③子どもの意欲を高める保育者の関わりの必要性を理解し、実践に活かすことができる。 		
授業の概要	乳幼児期の教育の基本原則の理解に重要なテーマについて理解し、子どもたちにとって魅力的な教育活動を計画・実践するための知識と技術を習得する。講義形式のほか、アクティブラーニングによる実践力形成を目指す。		
事前学習及び事後学習	幼稚園教育要領等のうち、事前に指定した箇所を目を通しておくこと。講義終了後は、授業中に配布した資料の復習をしておくこと。 <p style="text-align: right;">(各回授業の予習・復習時間は60分)</p>		
授 業 計 画		8	協同的な活動と集団の育ち
1	教育方法論で何を学ぶか—オリエンテーション	9	子どもの意欲を高める保育者の関わり①—保育者の子どもへの関わり方
2	乳幼児期の教育は子どもたちの何を育てるのか?—認知能力と非認知能力—	10	子どもの意欲を高める保育者の関わり②—活動における導入・展開・まとめ
3	「経験的カリキュラム」について①—乳幼児期の教育の特徴	11	明示的カリキュラムと潜在的カリキュラム
4	「経験的カリキュラム」について②—効果と問題点	12	教育の評価—子どもの育ちをみる視点と活用方法
5	教育政策の中の教育方法—戦後における変遷	13	乳幼児期の教育における情報機器の活用①
6	乳幼児期の教育方法のキーワード①—「遊び」について	14	乳幼児期の教育における情報機器の活用②
7	乳幼児期の教育方法のキーワード②—「環境」について	15	教育方法論における要点の整理と確認
成績評価方法		レポート課題等提出物：20%、学期末試験：80%	
テキストおよび参考図書		・文部科学省、『幼稚園教育要領解説』、2008年、フレーベル館、205円 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針<原本>』、チャイルド本社、2014年、540円	